



# 地方創生にかかると組事例集

平成29年11月  
滋賀県



# 目次

	ページ
(滋賀県) 1 「滋賀で家族になろう！」環境づくり推進(「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト) . . . . .	1
2 びわ湖フローティングスクール(「豊かな学びのフィールド・滋賀」人づくりプロジェクト) . . . . .	2
3 滋賀ウォーターバレー、水環境ビジネスの推進(滋賀ウォーターバレープロジェクト) . . . . .	3
4 I o Tによるイノベーションの推進(次世代のための成長産業創出プロジェクト) . . . . .	4
5 産業人材育成・確保のグッドジョブプロジェクト事業(産業人材育成・確保プロジェクト) . . . . .	5
6 障害者雇用の促進(働く力・稼ぐ力向上プロジェクト) . . . . .	6
7 U I Jターンによる移住や就職の促進(移住促進プロジェクト) . . . . .	7
8 「ピワイチ」による持続的な地域の活性化(滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト) . . . . .	8
9 滋賀の魅力を首都圏から全国に発信(滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト) . . . . .	9
10 健康寿命を延ばすための予防を重視した健康づくりの推進(高齢者の社会参加・健康長寿実現プロジェクト) . . . . .	10
11 新しいエネルギー社会の先導的な取組モデルの形成(滋賀エネルギーイノベーションプロジェクト) . . . . .	11
12 スポーツによる地域の活性化と特色ある文化の魅力発信(「東京オリンピック・パラリンピックで滋賀を元気に！」 プロジェクト) . . . . .	12
13 社会インフラの戦略的維持管理(持続可能な県土づくりプロジェクト) . . . . .	13
14 地域農業の発展と農村の活性化(「山～里～湖」農山漁村つながりプロジェクト) . . . . .	14
15 地域協働交通社会実験事業(交通まちづくりプロジェクト) . . . . .	15
16 安全で安心な暮らしを守る取組の推進(地域の防災・防犯力向上プロジェクト) . . . . .	16
17 国立環境研究所琵琶湖分室の設置を契機とした地方創生の推進(琵琶湖と人の共生でにぎわい創出プロジェクト) . . . . .	17
18 「世界農業遺産」認定に向けた取組の推進(滋賀の農業次世代継承「世界農業遺産」プロジェクト) . . . . .	18
19 空き家の流通促進(滋賀らしいゆとり生活再生プロジェクト) . . . . .	19
20 みんなで淡海子ども食堂をつくろう！応援事業(「ひとつながり」の地域づくりプロジェクト) . . . . .	20

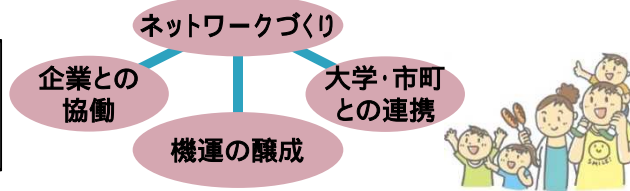
(大津市)【百人一首かるたを活用した観光プロモーション】コミック・映画「ちはやふる」をフックとした誘客促進	2 1
(彦根市)近江「美食都市」推進プロジェクト( (一社)近江ツーリズムボードへの補助事業)	2 2
(長浜市)【観音文化振興プロジェクト】首都圏連携による「観音の里・長浜」ブランドの構築	2 3
(近江八幡市)安寧のまちづくり(近江八幡市版CCRC)事業【H27年度～近江八幡市総合戦略事業】	2 4
(近江八幡市)近江八幡未来づくりキャンパス事業【H28年度～近江八幡市総合戦略事業】	2 5
(草津市)【住む人も、訪れる人も、健幸になれるまち「健幸都市くさつ」実現プロジェクト】健幸都市くさつの実現	2 6
(草津市)【住む人も、訪れる人も、健幸になれるまち「健幸都市くさつ」実現プロジェクト】草津版ヘルスツーリズム構築検討業務	2 7
(守山市)ピワイチ守山プロモーション事業	2 8
(栗東市)栗東100歳大学～多様な生き方を可能とする学びの場～	2 9
(甲賀市)【“甲賀流”DMO地域再生推進事業】甲賀流忍者活用戦略事業	3 0
(甲賀市)【“甲賀流”女性の活躍プロジェクト】生き活き女性活躍事業	3 1
(野洲市)【高齢者等の支えあい拠点・終活仕組みづくり事業】	3 2
(湖南市)【エネルギーの域内循環プロジェクト】地域の自然エネルギーでまちづくり(地産地消のエネルギー×ヒト×地域経済)	3 3
(高島市)【総合戦略・特産品海外販売戦略事業】高島ちぢみ、高島帆布を海外へ!	3 4
(高島市)【トップセールスによる企業誘致】廃校を活用した菌床きのこ栽培事業	3 5
(東近江市)【定住移住促進プロジェクト】補助金、移住ツアー、婚活、しごとづくり等を通じた移住促進	3 6
(東近江市)【人と人、人と自然とのつながり再生】森里川湖・鈴鹿10座エコツーリズムの推進!	3 7
(米原市)米原創生官民連携パートナーシップ事業提案制度	3 8
(日野町)【近江日野 三方よしの人づくり ふるさと活力再生プロジェクト】まちの賑わいの創出と地域経済の活性化に向けた地方創生の推進	3 9
(竜王町)【竜王町まるごと「スキヤキ」プロジェクト】竜王町の魅力を効果的に発信します。	4 0
(愛荘町)【THE近江・魅力満載プロジェクト】AISHO魅力発見!発信!プロジェクト事業	4 1
(愛荘町)あいしょう版『スポーツ×健康づくり×地域づくり』推進事業	4 2
(豊郷町)子育て世帯の支援と子育て環境整備 定住者を手厚くサポートしよう	4 3
(豊郷町)【基本目標2:豊郷町へ人の流れをつくる】傷んだ古民家が人の集う場所に生まれ変わる	4 4
(甲良町)小さな地域運営拠点ネットワークの形成による住みよい地域づくり	4 5
(多賀町)【森林資源を活用した多賀町再生】森林資源による地域活性化	4 6

# 【「結婚・出産・子育てするなら滋賀」プロジェクト】 「滋賀で家族になろう！」環境づくり推進



## 取組の概要

希望する人が結婚できるよう、  
若者を社会全体で応援！



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 17,293千円

### あいはぐプロジェクト応援団

意見交換会や研修会の開催を通して、若者の出会いの場づくりを応援・実施する企業・団体等のネットワークを構築

- ・ 出会いの場づくり等に取り組む団体数・企業数 16社・団体 (H28年度時点)
- ・ 企業等との協働による情報発信
- ・ ラジオ番組によるイベント情報の発信、メディアを活用したポジティブキャンペーン、若者を応援する企業の宣言募集、フォーラムの開催

### ライフデザイン形成支援(大学生向け)

- ・ ライフデザイン講座 (H28年度: 県内6大学で10回開催、計335名参加)
- ・ 「将来の自分のライフデザインをイメージすることができた」との回答: 86.9%
- ・ 幼児ふれあい体験 (H28年度: 県内5大学で5回開催、計120名参加)
- ・ 「将来家族をもつことについて考えるきっかけになった」との回答: 93.3%

### 少子化対策学生プロジェクト

若い世代が少子化問題を身近な出来事としてとらえ、大学生自身による事業の企画・実践を行うとともに、「新しい豊かさ」を創っていく機運を醸成

- ・ 平成28年度: 8事業(4大学)を採択

## 活用した国の支援・取組の工夫等

上記事業の実施に当たっては、国の地域少子化対策重点推進交付金を活用



幼児ふれあい体験



少子化対策学生プロジェクト

### 少子化対策 学生プロジェクト事業 企画一覧

#### 立命館大学

##### 理系女子少子化プロジェクト シヨクラ

理系女子学生の結婚や育児の意識を高め、人生設計について考える。  
理系女子の本音トーク、関西地域の理系企業の現地調査、座談会、講演会の開催。

#### 滋賀県立大学

##### 近江楽座所属プロジェクトチーム 「未来看護塾」

看護学生を取り組むライフプラン・ミーティング。  
①第1回助産師の立場から語る  
②第2回看護職(男性・女性)の立場から語る

#### びわこ学院大学

##### BGU 発信 WAKAAYU

マザーレイクびわこ若者世代に、育てのこころ育成プロジェクト。  
①若親(産前産後の若者)たちの本音トーク  
②先胎/ママの体験談  
③若親に伝えたい性教育  
④貼って育成イベント  
⑤子どもたちとふれあおう

#### びわこ学院大学

##### 子ども学科 鳥野ゼミ

「子育てしながらも、学がこともできる」をキーワードに、大学生の結婚について、子どもを生み育てながら学生生活を続けられる環境について考え、少子化を食い止めるために何をすべきか調査する。

#### びわこ成蹊スポーツ大学

##### びわこなでしこプロジェクト実行委員会

女性アスリートの将来の結婚や出産に影響しうる諸問題について、シンポジウムを通じて知識を高める。  
①婦人科専門のスポーツドクターの講演、結婚・妊娠・出産を経験した女性アスリートによるパネルディスカッション  
②参加者への意識調査

#### 立命館大学

##### REFLE.

「子育て」ワークショップの開催  
「子育て」に関するアンケート調査  
「結婚や子育てのリアル」に関する授業  
の実施等を大学や県津市へ提言

#### 立命館大学

##### スポーツ健康科学部 山浦ゼミ

「仕事と子育てにより良い環境を！」をテーマに、仕事と子育ての両立に向けた企業の支援施策を明らかにするため、企業インタビューやアンケート調査、座談会等を開催する。

#### 滋賀県立大学

##### 人間文化学部 京楽ゼミ

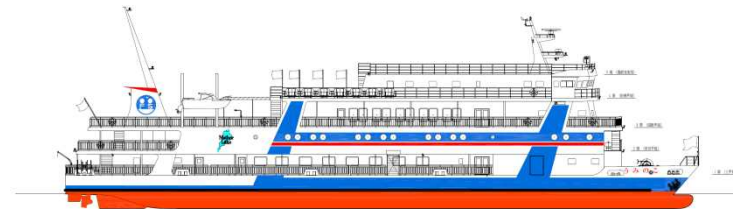
育児を楽しむ親たちに向けたインタビューを行い、育児の楽しさとともに、楽しさ、やりがい、仕事との両立の工夫を子どもにまとも、啓発に活用する。

# 【「豊かな学びのフィールド・滋賀」人づくりプロジェクト】 びわ湖フローティングスクール



## 取組の概要

- ・ 学校教育の一環として、県内小学5年生を対象に、琵琶湖を舞台にして、学習船「うみのこ」を使った宿泊体験型の教育「びわ湖フローティングスクール」を展開
- ・ 昭和58年(1983年)に就航し、これまで(2017年)約53万人の児童が乗船



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 761,100千円

### 1. 「湖の子」体験学習

- (1) びわ湖学習(びわ湖や郷土を教材とした体験学習および交流学习)
- ・ びわ湖の魚の採捕体験、展望活動、寄港地活動、プランクトンの観察、びわ湖の水の透視度調べ、湖底の観察、水草の観察、カッター活動など
- (2) 船内生活(学習の基盤となる大集団の共同生活)
- ・ 開校式、避難訓練、「湖の子」掃除、閉校式など

### 2. 新船の建造

- ・ 現在の「うみのこ」が就航から34年が経過し、老朽化してきたことから、平成30年の就航に向け、新船を建造
  - 建造費 約30億円
  - 船名「うみのこ」：公募、選考会を経て、決定  
愛着のある「うみのこ」の名称を継承
  - 実験室、防災倉庫を新設。ICT機器を導入。



プランクトンの観察



びわ湖の水の透視度調べ



避難訓練



「湖の子」掃除




新船完成パース

# 【滋賀ウォーターバレープロジェクト】 滋賀ウォーターバレー、水環境ビジネスの推進



## 取組の概要

水環境の課題解決に向けた技術、製品、情報をはじめ、企業や大学、政府関係の研究機関の集積(ウォーターバレー)を目指すとともに、その連携によりプロジェクトを創出・展開し、水環境ビジネスを推進しています。



**しが水環境ビジネス推進フォーラム**  
- 産学官金民によるプラットフォーム -  
メンバー：157の企業・団体、個人  
(H29.8末現在)

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 34,696千円

### 水環境ビジネス関連企業・団体の誘致・ネットワークの充実

- ・水環境ビジネスの推進母体である「しが水環境ビジネス推進フォーラム」をプラットフォームとしてセミナーや広報活動を実施し、国内外での情報発信を強化。
- ・企業、大学、国立環境研究所等が参画する「しが水環境ビジネス推進フォーラム 研究・技術分科会」を設置し、産学官金が連携して、水環境ビジネス関連の技術開発を推進。

### 水環境ビジネス関連の商談件数アップ

- ・海外有力水環境関連企業を招聘して、JETROと大阪府との連携のもと、商談会を開催。
- ・ベトナムの水関係技術の見本市である「VIETWATER」に近畿経済産業局と合同で出展し、企業支援を実施。

### 水環境ビジネス関連プロジェクトの創出と海外展開支援

- ・海外展開事業化モデル事業補助金により、複数の企業が海外で実施する実現可能性調査や現地での実証試験・効果の検証を支援。
- ・JICAや環境省のスキームを活用した国際協力活動を実施。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生加速化交付金(H27国補正)、地方創生推進交付金(H29国当初)の活用。
- ・JICAスキーム(草の根技術協力事業や技術協力プロジェクト等)や環境省スキーム(アジア水環境改善モデル事業)の活用。



セミナー



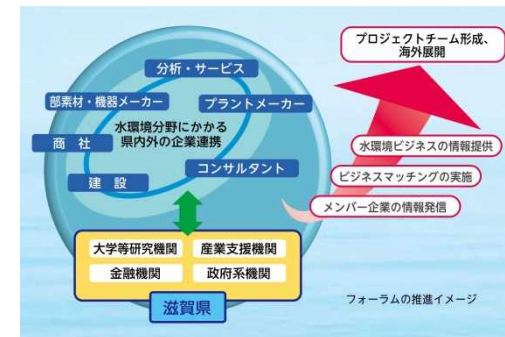
商談会



VIETWATER



JICA草の根技術協力事業



しが水環境ビジネス推進フォーラム

# 【次世代のための成長産業創出プロジェクト】 IoTによるイノベーションの推進



## 取組の概要

IoTの活用により新ビジネスの創出や地域課題の解決を目指す多様な分野の関係者に、最新情報や交流・出会いの場を提供。新たなIoTサービス・製品の創出を目指す関係者の取組を、地域の産学官金が一体となってサポートします。

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H29予算額 38,559千円  
(H29年度新規事業)

### 滋賀県IoT推進ラボによるIoTを活用したイノベーション創出のための支援

・滋賀県IoT推進ラボでは、地域課題の解決を目指す様々な現場の関係者やIoTビジネスの創出を目指す企業の関係者等に最新情報や交流の場を提供します。これをきっかけに生まれた新たなIoTサービス・製品のアイデアをもとに新たなIoTプロジェクトの構築と実証研究を進めるとともに、関係者による多様な支援策を展開することで、IoTの活用により現場の課題解決を図る新たなサービス・製品の創出と事業化を促進します。

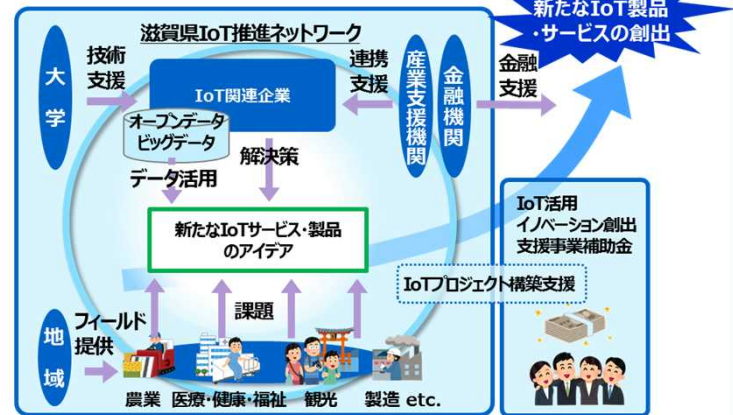
### IoTによる新たなビジネスモデルの構築への資金支援

・IoT活用によりイノベーションの創出を目指す取組に対し、その経費の一部を補助することにより、新たな需要の開拓や経済循環の活性化につながるなど、本県経済を牽引する新しいビジネスモデルの構築等を促進し、本県経済の活性化と雇用の維持・拡大、地域の活性化を図ります。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

・地方創生推進交付金(H29国当初)の活用。

### 滋賀県IoT推進ラボの説明



IoT推進ラボ キックオフセミナー



# 【産業人材育成・確保プロジェクト】

## 産業人材育成・確保のグッドジョブプロジェクト事業



### 取組の概要

インターンシップを通じ、学生の職業観等を醸成するとともに、県内企業等への理解を促進。また、平成28年度に産官学金連携による「滋賀インターンシップ推進協議会」を設置し、県内企業や農業法人への就職者の増加を図るとともに、ミスマッチの防止を図っている。

### 滋賀 インターンシップ 推進協議会

#### 構成メンバー

- ・大学・経済団体
- ・金融機関・農業団体
- ・労働団体・行政機関

### 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 31,853千円

#### 1. インターンシップの普及・拡大

- ・平成28年10月に「滋賀インターンシップ推進協議会」を設立  
(参加大学13大学、インターンシップ実施協力企業・農業法人数54社)
- ・夏季(8~9月頃)および春季(2月頃)に5日間以上のインターンシップを実施  
(H29年度は、20企業に対し、学生50名の参加を予定)
- ・企業訪問やセミナーの開催により受入企業を開拓し、必要に応じてコンサルティングを実施
- ・学生と企業の事前交流会を開催
- ・インターンシップの成果を関係者が共有するための報告会を開催

#### 2. 県内企業等の魅力発信

- ・魅力ある県内企業の情報を発信するため、企業情報サイト「WORKしが」を運営するとともに、県内企業への就活を応援する企業ガイドブックを作成

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生加速化交付金(H27国補正)、地方創生推進交付金(H29国当初)の活用。



滋賀インターンシップ  
推進協議会総会



インターンシップ  
成果報告会



県内企業への就活応援  
ガイドブック「しが就活ガ  
イド 元気企業発見!」



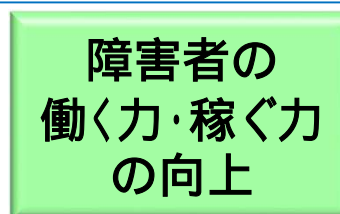
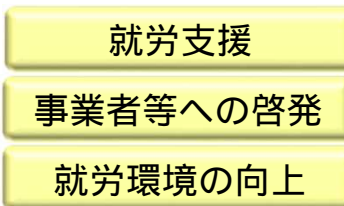
インターンシップ  
参加学生募集チラシ

# 【働く力・稼ぐ力向上プロジェクト】 障害者雇用の促進



## 取組の概要

NPOや労働局等関係機関、庁内関係部局と連携し、障害者に対する就労支援や事業者等への啓発および就労環境の向上等により、障害者雇用の推進を図る施策を展開



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 23,513千円

### 障害者に対する就労支援

- ・障害者の働くこと、暮らすことを一体的にサポートする機関として、国が設置する障害者就業・生活支援センター事業に、滋賀県独自の機能拡充施策（職場開拓、定着支援）を行い、「働き・暮らし応援センター」として各福祉圏域7か所に設置。
- ・事業主、障害者双方の就労への理解促進を図るため職場体験事業（トライWORK）を実施。

### 事業者等への啓発

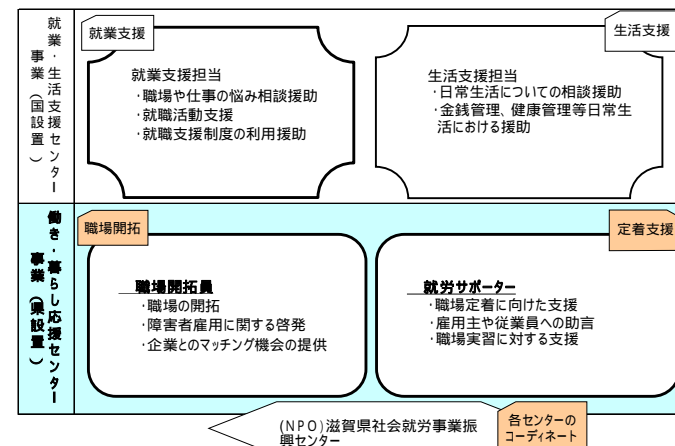
- ・企業が一層主体的に障害者雇用に取り組む契機とするため、第一部を障害者雇用優良事業所等の表彰式、第二部を障害者雇用シンポジウムとした「障害者ワークフェアしが」を開催。

### 就労環境の向上

- ・平成29年度より、障害のある従業員のサポート体制を強化するため、職場適応援助者（ジョブコーチ）養成研修を滋賀県内で実施する。  
（開催時期：10月～11月（計6日間） 参加者目標：県内事業者20名）



「障害者ワークフェアしが」



働き・暮らし応援センターの支援内容

## 活用した国の支援・取組の工夫等

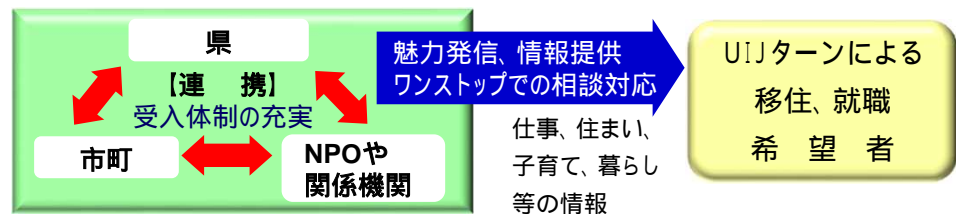
- ・「働き・暮らし応援センター代表者会議」等を通じて、庁内関係部局やNPO法人・関係機関等と連携し、課題や現場状況の早期共有を図っている。
- ・労働局とは定期的に情報交換会を開催し、局の持っている情報や国の動向等の早期把握を行っている。

# 【移住促進プロジェクト】 UIJターンによる移住や就職の促進



## 取組の概要

市町やNPO、ハローワーク等関係機関、庁内関係部局と連携し、魅力の発信や情報提供、移住者受入体制の充実など効果的に施策を展開



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 16,141千円

### 移住先としての認知度の向上

- ・移住ポータルサイト「滋賀暮らし」により、移住者の暮らしに関する情報を発信。(H29年度に改修予定)
- ・平成29年7月に、県外居住者を対象に、協賛事業所による移住に役立つサービス等の優待が受けられる「しがIJU応援カード会員制度」を創設。

### ワンストップで相談対応できる体制の整備

- ・平成29年7月に、UIJターンによる移住や就職に係る情報提供、具体的な相談に対応するため、東京有楽町のふるさと回帰支援センター内に「しがIJU相談センター」を設置(東京日本橋の情報発信拠点「ここ滋賀」(H29.10オープン)とも連携)。
- ・市町等と連携した移住相談会・セミナー等の開催やフェアへの出展(H28実績 参加者数・相談者数 415名)

### 地域レベルでの移住者の受入体制の充実

- ・移住希望者と地域とをつなぐ架け橋役を育成するため「移住サポーター研修」を開催(H28実績 参加者数24名)。

「UIJ」ターン 「I」JU(移住)と並べ替え、  
いじゅう 事業名として使うもの。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(H26国補正)、地方創生加速化交付金(H27国補正)、地方創生推進交付金(H29国当初)の活用。
- ・「滋賀移住・交流促進協議会」を通じて、関係市町やNPO・関係機関等と連携。



移住ポータルサイト



しがIJU応援カード

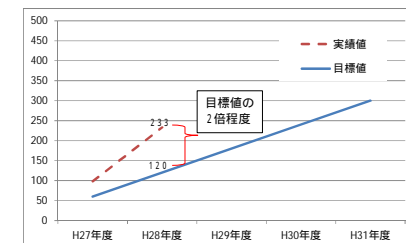


しがIJU相談センター



移住相談会

移住施策に取り組む市町への県外からの移住件数(累計)



# 【滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト】 「ビワイチ」による持続的な地域の活性化



## 取組の概要

これまでの官民様々な主体の取組とサイクリング業界の盛り上がりと相俟って、「ビワイチ」推進の機運が高まっており、県庁内にビワイチ推進室を設置(H29.4)し一体的な取組を推進する。また、ビワイチ推進総合計画の策定による県、市町、事業者、地域等が一体となった自立的な「ビワイチ」推進体制を構築し、「ビワイチ」による持続的な地域の活性化を実現する。



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 95,270千円

### 推進体制の整備

- ・走行環境整備、交通システム整備、観光施策を一体的に推進するため県庁内に「ビワイチ推進室」を設置(H29.4)
- ・ビワイチ推進総合計画の策定(H29)

### ビワイチ観光推進事業

- ・「ビワイチ」レンタサイクル拠点の整備促進
- ・サイクルサポートステーション(CSST)の整備  
空気入れや自転車用工具、トイレの貸出し等を行う拠点を整備(H28:132ヶ所、H29:200ヶ所予定)
- ・ぐるっとびわ湖サイクリングマップ刷新、「プラスルート」の設定による各地への誘客強化
- ・サイクルツアーガイドの養成
- ・湖上交通やサイクリートレインなどを活用したショートビワイチの提案
- ・情報発信 サイクリング系広報媒体による発信、サイクルイベント出展、国内外のキーパーソン招請による発信



### 自転車走行空間整備事業

- ・走行環境整備・路面標示(矢羽根、ブルーライン)によるルート案内(H28:25km、H29:約20km)
- ・路肩拡幅等により走行空間確保(H29:3ヶ所の工事着手)

### 安全・安心な自転車利用に向けた取組

- ・安全利用啓発(サイクリスト、CSST、自動車、ガイド)
- ・安全・安心な自転車利用環境構築に向けた研究、レンタサイクル利便性向上検討



サイクルサポートステーションの整備



レンタサイクル拠点の整備  
(米原駅サイクルステーション)



自転車走行空間整備  
(矢羽根による路面標示)



湖上交通の活用



サイクリストへの安全指導

## 活用した国の支援

・地方創生加速化交付金(H27国補正)、地方創生推進交付金(H29国当初)、地方創生拠点整備交付金の活用。

# 【滋賀の素材・魅力磨き上げプロジェクト】 滋賀の魅力を首都圏から全国に発信



## 取組の概要

〔目指す姿〕『全国・世界から選ばれる滋賀』へ

滋賀の魅力を実際に見て、触れて、食べることができる体験型の発信を行うとともに、滋賀への誘引の役割を担う情報発信拠点「ここ滋賀」を整備・運営する。また、拠点で体感できる滋賀の魅力の発信、首都圏での滋賀ファンの裾野拡大および営業活動の強化を行う。

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H29予算額 324,334千円  
(H29.10「ここ滋賀」開設)

### 情報発信拠点の開設

・東京日本橋に、体験型の発信を行うとともに、滋賀への誘引の役割を担う情報発信拠点「ここ滋賀」を整備 (H29.10オープン)。

### 滋賀の魅力を体感できる発信

- ・滋賀ゆかりの著名人(県出身の田原総一郎氏、滋賀ふるさと観光大使の西川貴教氏)等の起用によるPR、オープニングイベント(H29.10)。
- ・毎月テーマを設定(「秋の収穫祭」～近江の食を楽しもう(H29.11)等)した企画催事を、市町、民間事業者、びわこビジターズビューロー、商工会等の多様な主体の参画を得て実施。
- ・定番商品や企画催事と連動し、雑誌(「メトロミニッツ」(東京メトロの広報誌))等でも滋賀の風土や作り手の思い等を紹介。

### 首都圏におけるネットワークの構築

- ・日本橋や滋賀ゆかりの企業、人、店舗が集まる地域の情報誌等(「月刊日本橋」、「L'ala Pado(ラーラパド)」)による発信
- ・首都圏にある滋賀ゆかりの店と県内事業者・生産者等との出会いの場の提供(滋賀の食材使おう会の開催)
- ・滋賀ゆかりの企業や人のつながり強化(近江ゆかりの会、企業セミナーの開催)

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生加速化交付金(H27国補正)、地方創生推進交付金(H28・29国当初)の活用。



「ここ滋賀」外観



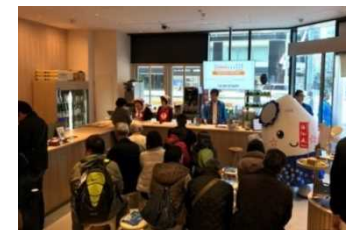
1階



1階 地酒バー



2階 レストラン「滋乃味」



近江米おむすびコンテスト3作品発表イベント(H29.11)

# 【高齢者の社会参加・健康長寿実現プロジェクト】 健康寿命を延ばすための予防を重視した健康づくりの推進

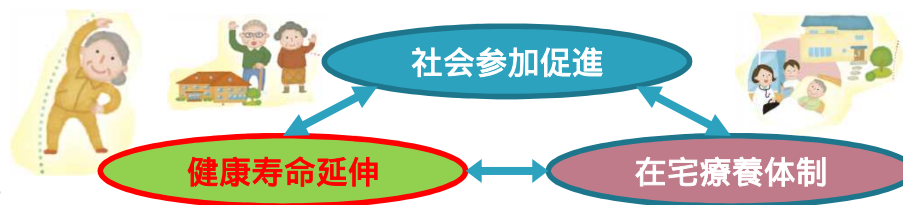


## 取組の概要

### 健康寿命延伸事業の推進

「安心していきいき暮らせる地域社会づくり」のため、全ての県民の健康を支える環境を整備

「社会参加促進」「在宅療養体制整備」の各施策とあわせて一体的に推進



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 930千円

### 健康寿命延伸プロジェクトの取組

#### 企業、団体等における健康づくりの取組推進

##### 優良事例の表彰

- ・ 栄養、運動、喫煙対策、介護予防等に積極的に取り組む団体や企業を発掘
- ・ 従来の「地域部門」に加えて、H28年度は「企業部門」を新設し、最優秀賞として4団体・1企業を表彰
- ・ 健康づくりに取り組む企業、団体等の数：H26 1,096団体 H28 1,289団体
- ・ 県民への情報発信
- ・ 団体や企業の活動内容を収めたDVDを県内市町等へ配布し、県HPに掲載

#### 県民の野菜摂取量の増加を目指した「野菜一皿キャンペーン」

県内の量販店等における野菜料理の展示、レシピ配布

- ・ H28年度には26回の啓発活動を実施

### 働き盛り世代への取組強化(平成29年度～)

「滋賀県健康いきいき21地域・職域連携推進会議」の充実強化

- ・ ワーキング部会を設置し、団体や企業の具体的取組の把握、成果・課題の検証、好事例の収集
- ・ ワークショップの開催を通じて、情報交換・好事例の横展開の機会を創出



健康資源優良事例表彰式



「野菜一皿キャンペーン」  
啓発活動

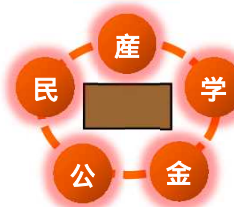


# 【滋賀エネルギーイノベーションプロジェクト】 新しいエネルギー社会の先導的な取組モデルの形成

Mother Lake

## 取組の概要

平成28年3月に策定した『しがエネルギービジョン』に掲げる「原発に依存しない新しいエネルギー社会」の実現に向けて、「民産学金公」が連携し、地域の未利用エネルギーを活用した先導的なモデル地域づくりを推進。



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 19,876千円



### 未利用エネルギーを活用したモデル地域づくり

- ・水草や食品廃棄物を活用したウェット系バイオマス発電の事業化検討(草津市)
- ・未利用間伐材を活用した木質バイオマス発電の事業化検討(長浜市)
- ・家畜排せつ物を活用したウェット系バイオマス発電の事業化検討(日野町)
- ・県営姉川ダムにおける水力発電事業の開始(米原市)



### エネルギーの面的利用等スマートエネルギーシステムの構築

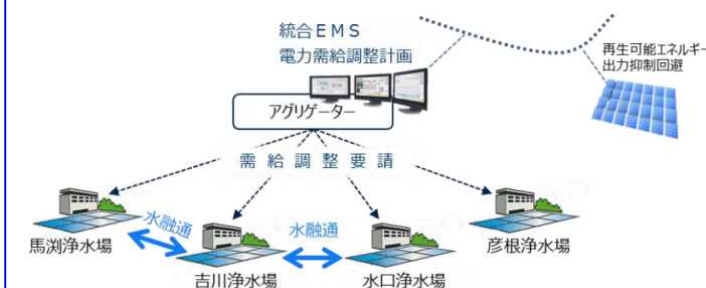
- ・企業庁浄水場のポンプ群の統合制御によるアグリゲーターの事業化検討およびバーチャルパワープラントのエネルギーリソースへの導入検討(県内4浄水場)
- ・食品工場におけるスマートエネルギーシステム構築(栗東市)
- ・工業団地スマートエネルギー構想の事業化検討(湖南市)
- ・琵琶湖流域下水道の下水熱利用に向けた調査研究および事業化検討



未利用エネルギーを活用した地域モデル

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・スマートコミュニティ構想普及支援事業費補助金(H26国当初)や地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業費補助金(H28国当初)の活用
- ・県内の「民産学金公」が参画する「しがスマートエネルギー推進会議」や「県市町エネルギー研究会」を通じて、新たなエネルギープロジェクトを誘発・組成



県内浄水場のポンプ群制御によるアグリゲーター事業

# 【「東京オリンピック・パラリンピックで滋賀を元気に！」プロジェクト】 スポーツによる地域の活性化と特色ある文化の魅力発信



## 取組の概要

東京オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、ホストタウン制度を活用した国際交流、住民交流の創出による地域の活性化につなげるとともに、全国で展開される文化プログラムへの参画を通じ、本県の特色ある文化の魅力を国内外に発信する。

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 78,318千円

### ホストタウンを通じた地域活性化の展開

- 各市と連携しながら、スポーツを端緒に県内各地の特性を活かしたホストタウンの推進に取り組んでいる。
- ホストタウンの取組効果を県域で発揮させるため、関係団体で組織するホストタウン滋賀交流推進実行委員会を通じて、大会への選手の招待や交流イベントの開催、相手国への理解を深めるための講演の開催や食文化に触れる事業など、文化や教育、経済等様々な分野における交流の拡大を図っている。

<県内のホストタウン登録> H29.8現在

滋賀県・大津市：デンマーク（ボート）

米原市・滋賀県：ニュージーランド（ホッケー）

守山市・滋賀県：トルコ（視覚障害者柔道・ゴールボール）



### 文化プログラムへの参画

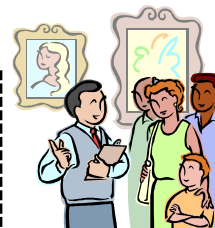
- 東京2020参画プログラムおよびbeyond2020プログラムへの県関連事業の認証を得るとともに、市町や関係団体等に参画を促進。

#### 東京2020参画プログラム

東京2020大会の大会ビジョンのもと、スポーツだけでなく、文化芸術や地域での世代を越えた活動など、参加者自らが体験・行動し、未来につなぐプログラム。

#### beyond2020プログラム

2020年以降を見据え、日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、次世代に誇れるレガシーの創出に資する文化プログラムを認証するもの。



デンマーク体操講習会



マシンローイング大会への選手招待



米原市学校給食  
ニュージーランドの日



音楽祭へのトルコ大使招待



琵琶湖就航の歌記念事業



# 【持続可能な県土づくりプロジェクト】 社会インフラの戦略的維持管理



## 取組の概要

県施設については、施設分野ごとに長寿命化計画の策定を進めるとともに、修繕や改築等の対策を計画的に実施。  
また、市町管理の橋梁の点検について、市町の人不足・技術力不足を補うため、国・県・大学等が連携し市町を支援する枠組みを創設

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかるH28決算額 - 千円  
(人的支援および技術力支援を目的とした仕組みを県が  
主導となって構築。実際の費用は市町が負担。)

### 市町管理の橋梁の点検における連携取組

#### 人的支援

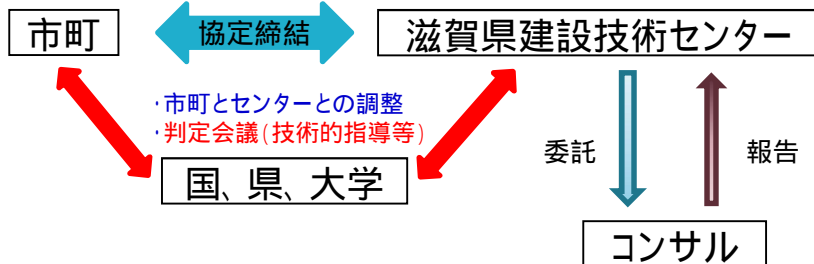
- 平成26年度から道路法により義務付けとなった橋梁定期点検について、市町が実施する点検委託事務を(公財)滋賀県建設技術センターが一括して発注する枠組みを創設。

#### 技術力支援

- 点検成果の品質確保のため、判定会議を実施。
- 経験し得ない不具合発生時には国・大学と連携し対応。



国・県・市町・大学教授等による現地診断



判定会議

# 【「山～里～湖」農山漁村つながりプロジェクト】 地域農業の発展と農村の活性化



## 取組の概要

県では、平成30年産からの「米政策改革」を踏まえ、生産者や団体、県・市町が一体となって、需要に応じた米づくりに取り組んでいる。そうした中、水稻と麦・大豆を組み合わせた集落営農が早くから発展してきた本県の特徴を生かし、各地域においては、今後も集落機能を活用した水田農業の維持・発展が求められている。

こうしたことから、需要に応じた米生産と水田フル活用、担い手の育成や担い手への農地集積、経営の複合化や多角化への取組を推進しているほか、活力ある農村づくりを進めるために、集落での話し合いや農村まるごと保全向上対策、中山間地域等直接支払制度の取組を推進し、農村の活性化等に向けた支援を行っている。

### 「米政策改革」

行政による主食用米の生産数量目標の配分を廃止し、生産者や団体が中心となって需要に応じた米づくりを行う姿に転換する。

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 1,772,978千円

### 水田農業経営の安定

- ・環境こだわり米である「みずかがみ」をはじめとする主食用米の需要に応じた生産、契約栽培を促進。
- ・麦、大豆、飼料用米等の本作化により、水田のフル活用を推進。
- ・地域で策定する「産地づくり戦略」に基づき、野菜等の園芸作物の生産拡大と、農産物の直売、加工等の農業の6次産業化による経営の複合化・多角化の推進。

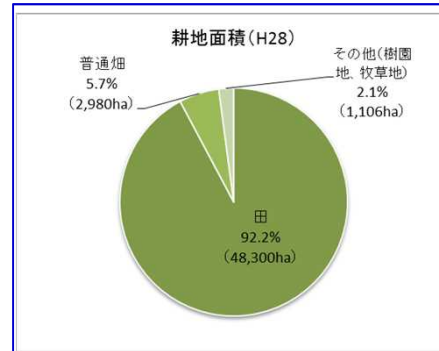


### 担い手の育成

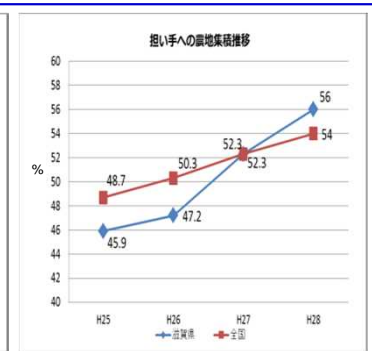
- ・新規就農者の確保・育成のための支援の充実。
- ・集落営農の組織化・法人化と経営体質の強化、次世代リーダーの育成、経営能力向上等を支援。
- ・農地中間管理機構の活用や農業基盤整備を契機とした担い手への農地の面的集積の促進。

### 「地域農業戦略指針」に基づく集落での話し合いの推進

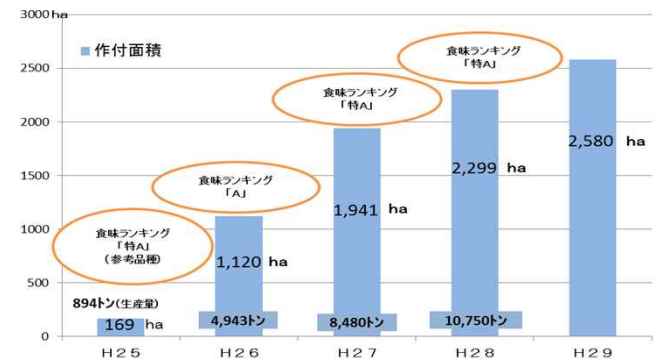
- ・滋賀県独自の「地域農業戦略指針」に基づき、県、市町、関係団体等が連携して、集落での話し合いを推進し、担い手を支える集落の仕組みづくりや農村の活性化などを促進。



県の耕地面積に占める水田の割合は、92.2%で全国2位



担い手への農地集積は全国平均を上回っている



※ 生産量(トン)は農林水産省公表の農産物検査数量、H28年産は3月31日現在  
 ※ 食味ランキングは(一財)日本穀物検定協会による評価(特A、A、A'、B、B'の5段階)  
 ※ 参考品種とは、話題性のある品種としてランキング外で評価されるもの

「みずかがみ」の作付拡大と特Aの連続取得

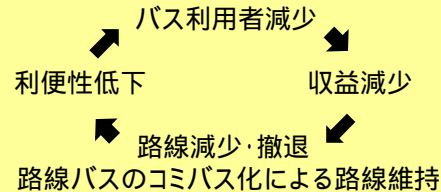
# 【交通まちづくりプロジェクト】 地域協働交通社会実験事業



## 取組の概要

人口減少、少子超高齢社会の到来による地域公共交通に対する課題に対応するため、市町や地域、交通事業者、県が連携・協働して、地域の交通に対する新たな取組を模索・検討する社会実験を実施。(H29年度新規事業)

### 【従来からの課題】



### 【新たな課題】

人口減少 + 異次元の少子超高齢社会  
 1966年(65歳以上人口が約10%)  
 2050年(65歳以上人口が約40%)の予測  
 免許返納高齢者の増加  
 県・市町・地域の協働による新たな取組を模索

## 特徴的な取組

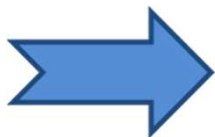
特徴的な取組にかかる  
 H29予算額 1,000千円  
 (H29年度新規事業)

効率的かつ持続的な公共交通の再編や、高齢者の運転免許返納等に伴う移動手段の確保に向け、地域の実態に応じた生活交通の再編や、地域における支えあい等も含め、地域の実情に応じた移動手段の確保等に向けた取組

### 社会実験事業の取組内容例

利用率の極めて低いコミュニティバスに代わる新たな交通の検討

交通不便地内で地域住民の主導による新たな交通の検討  
 デマンドタクシー等の既存の交通の運行方法の工夫



実験結果を検証して、持続可能な方法で公共交通を維持・確保する方策の検討に活用する

### 市町別バスの運行状況



- 緑：路線バスのみ運行
- 黄：路線バスとコミュニティバス・デマンドタクシーを運行
- 赤：コミュニティバス・デマンドタクシーのみを運行



コミュニティバス



デマンドタクシー

# 【地域の防災・防犯力向上プロジェクト】 安全で安心な暮らしを守る取組の推進



## 取組の概要

人口減少と高齢化が進行した地域においても、人々が安全で安心して暮らすことができるよう、地域の実情に応じた自助、共助による防災や防犯の対策を推進

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 7,667千円

### 「防災カフェ」の定期開催

危機管理センターの研修・交流事業の一環として、様々な危機事案の対応に関心のある団体や個人が、気軽に防災について語り合うことができる交流の機会と場所を提供

様々な危機事案に対する県民等の疑問について、わかりやすく解説

- ・平成28年度 10回開催、参加者合計283名

### 「消防団応援の店制度」の創設

地域をあげて消防団を応援する機運の醸成、消防団活動への理解促進を図る

- ・平成28年度：県内9市町で実施
- ・平成29年度から全市町で実施



### 次世代防犯ボランティアの育成・支援

地域住民の防犯意識・自助能力を高めるために、若い世代のボランティア活動を支援し、防犯活動の活性化を図る

県内各地で活動するヤング防犯ボランティア(高校生、中学生等)のリーダーが一堂に会して、ボランティア間の意見交換など相互の交流を図る「滋賀県防犯ボランティアサミット」を開催

- ・平成29年度 参加者 15団体64名

大学生等による若い世代の防犯ボランティアによる防犯パトロール、街頭啓発、防犯寸劇等のボランティア活動の支援



「防災カフェ」の開催



「滋賀県防犯ボランティアサミット」の開催



ヤング防犯ボランティアによる街頭啓発

# 【琵琶湖と人の共生でにぎわい創出プロジェクト】 国立環境研究所琵琶湖分室の設置を契機とした地方創生の推進



## 取組の概要

我が国の湖沼環境研究をリードする国立環境研究所の琵琶湖分室の設置を契機として、共同研究成果等を水環境ビジネスや水産業の活性化、行政施策につなげる産学官金連携による取組を推進し、地方創生を図る。

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 61,970千円

### 共同研究

- 平成29年1月に、企業、行政、大学、研究機関等が参画する「しが水環境ビジネス推進フォーラム」に「研究・技術分科会」を設置。
- 平成29年4月に、琵琶湖環境科学研究センター内に国立環境研究所が琵琶湖分室を設置。
- 琵琶湖分室や他の研究機関と、生態系に配慮した新たな水質管理手法や、在来魚介類のにぎわい復活に関する調査研究等の共同研究を開始(H28年度～)。

### 研究成果の実用化に向けた取組

- 研究成果等の情報を共有化するためのデータベースを整備。(H29年度設計、H30年度完成予定)。
- 情報交流会の開催、コーディネーターによる支援、実用化に向けたプロジェクトチームによる研究開発等を実施。
- 水草等対策の高度化を図るため、企業や大学等から水草等の除去や有効利用にかかる新たな技術等の提案を募集し、開発や研究を支援。

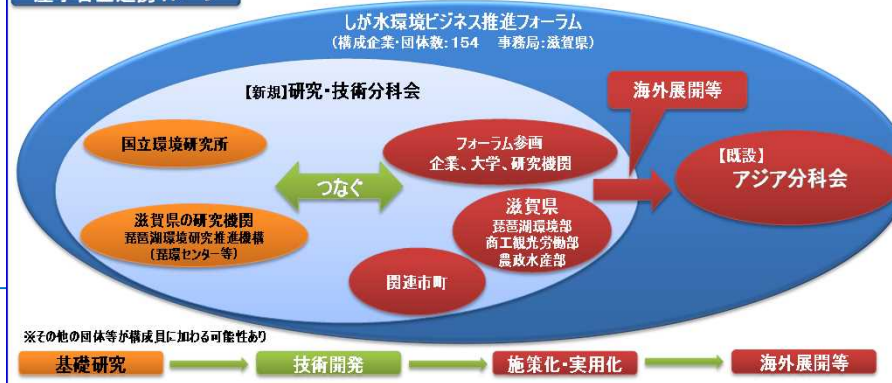
### 今後の展開

- 研究成果等を、**施策化(行政)・実用化(ビジネス等)、海外展開等**につなげるための取組を、「滋賀ウォーターバレー・水環境ビジネス推進事業」と連携して実施。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- 地方創生推進交付金(H28,H29国当初)の活用。

### 産学官金連携イメージ



第1回研究・技術分科会の様子(H29.1)



琵琶湖分室の開所(H29.4)



実用化イメージ

# 【滋賀の農業次世代継承「世界農業遺産」プロジェクト】 「世界農業遺産」認定に向けた取組の推進



## 取組の概要

・水田に遡上する湖魚を育む「魚のゆりかご水田」や、資源にやさしい「伝統的な琵琶湖漁業」、米と湖魚との融合から生まれた食文化である「鮒ずし」など、滋賀ならではの象徴的な取組とそれらを支える日本一の「環境こだわり農業」や水源となる森林保全活動、農業用水の循環利用などをひとつのストーリーとしてとりまとめ、「世界農業遺産」の認定に向けた取組を推進します。

・この取組のプロセスを通じて、県産物の高付加価値化や観光資源としての活用につなげ、滋賀の農林水産業を健全な姿で次世代に引き継ぎます。

## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 28,166千円

### 「世界農業遺産」の認知度向上、認定に向けた県民の機運醸成

「世界農業遺産」の認知度 (H27全国調査:5%) を向上し、(H31年度目標 県政モニター調査:50%)、県民の機運の醸成を図る。

- ・県ホームページ (H28.6)、Facebook ページ (H28.7) の開設
- ・「世界農業遺産」認定に向けたシンポジウム開催

(第1回 H28年9月24日参加者 320名、第2回 H29年2月19日参加者 180名)

効果: 2回のシンポジウムを通じて、「世界農業遺産」に対して県民に一定の周知を図ることが出来た。2回目のシンポジウムでは参加者の50%が「(シンポジウム)以前から世界農業遺産について知っていた」と回答)

### 県・市町・関係団体等との体制整備

H30年度の農林水産省への申請 (H31年度の世界農業遺産認定) を目指した推進体制の整備

- ・「琵琶湖と共生する滋賀の農林水産業推進協議会」設立準備会の開催 (H28.9, H29.3)  
(会員数 団体82団体、個人263名:平成29年3月末時点)
- ・「世界農業遺産」をめざそう! 会員通信の発信開始 (H28.11 ~)
- ・先進地視察研修会の開催 (和歌山県「みなべ・田辺の梅システム」) (H28.12)

効果: みなべ・田辺地域における梅の海外に向けての販売戦略や観光振興策など認定後の具体的な取組とその効果について学ぶことが出来た。

### 「豊かな生きものを育む水田づくり」の取組拡大

- ・生きもの調査や生物多様性に配慮した工夫をするなど、滋賀ならではの多様な生きものを育む水田づくりに取組む活動団体を昨年度に比べて6組織増やした。(37組織)



「推進協議会」設立準備会  
設立



「推進協議会」設立準備会  
総会



広報用リーフレット



会員募集チラシ



シンポジウム



視察研修会

# 【滋賀らしいゆとり生活再生プロジェクト】 空き家の流通促進

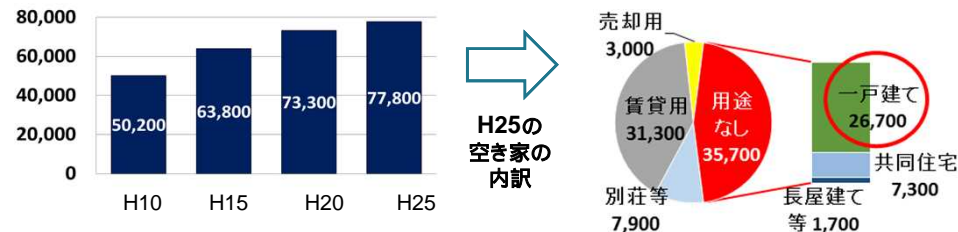


## 取組の概要

本県は、子育て世代の転入が多く、また、戸建ての持家に居住する割合は高いが、既存住宅を取得して居住する割合が低い。

今後、人口や世帯数の減少に伴い空き家は大幅に増加すると見込まれることから、既存住宅の活用を促進する必要がある。

そこで、空き家の活用を促進することにより、既存宅地において戸建て住宅等を比較的安価に取得することなどを可能とし、住生活における経済的、空間的、時間的なゆとりの享受を実現するとともに、地域コミュニティの活力の維持・向上と持続可能な住環境づくりを目指す。



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H29予算額 7,000千円  
(H29年度より補助事業実施)

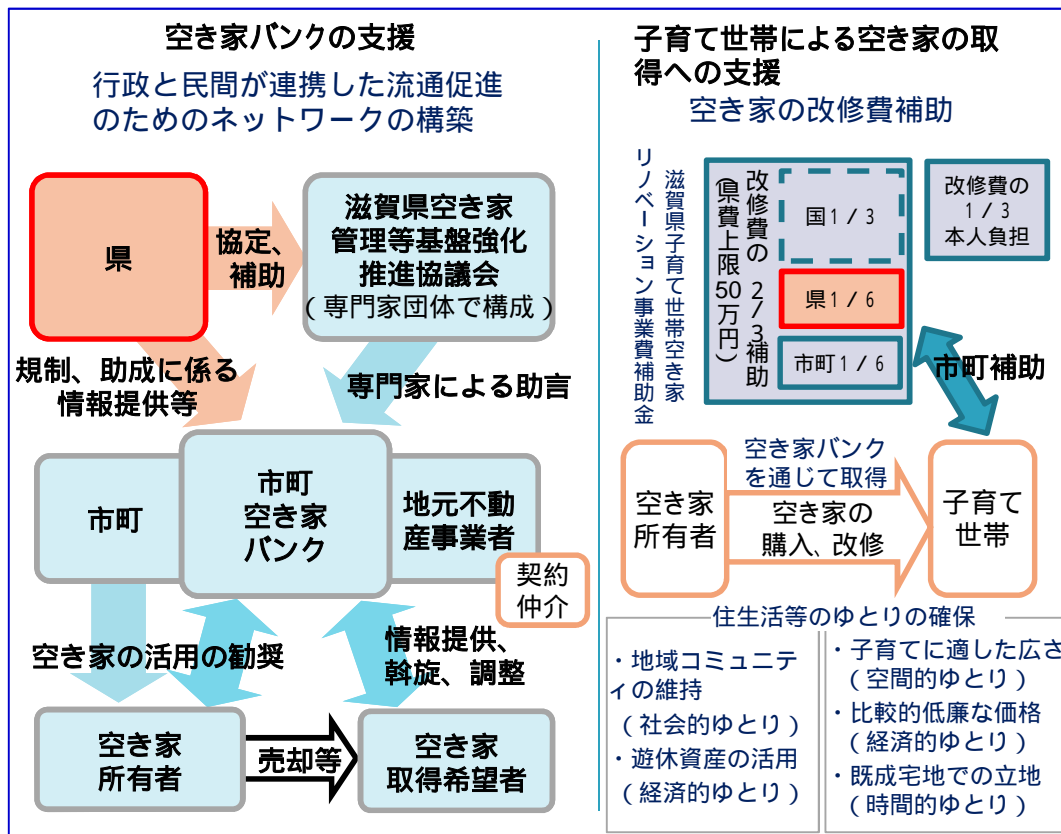
市町の空き家バンクの活動を支援する専門家組織に対して運営費の一部を補助するほか、市町や空き家バンクが情報交換を行う場などを提供する。

子育て世帯による空き家の取得を支援するため、取得した空き家の改修費用の一部を補助する(市町への間接補助)。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

・地域性を踏まえ、町家などの空き家の住宅以外への転用も促進する。

・補助金は空き家対策に係る国庫補助金と併用可能な仕組みとし、相乗効果を図る。



# 【“ひとつながり”の地域づくりプロジェクト】 みんなで淡海子ども食堂をつくらう！ 応援事業



## 取組の概要

- ・「淡海子ども食堂」は、食事の提供や勉強の支援などを通して、子どもを中心とした地域の支え合いづくりの場をつくっていかうとするもの。
- ・地域の子もなら、どの子も参加でき、また、ごはんを食べたり、宿題をしたり、本を読んだり、遊んだりして、子どもが安心して過ごすことができる場所。
- ・行政や学校にとどまらず、自治会、NPO、社会福祉法人などのさまざまな主体が関わり、子どもだけでなく、家族や高齢者なども含め、地域ぐるみで支え合う場所。



## 特徴的な取組

特徴的な取組にかかる  
H28決算額 12,120千円

### 県域展開のためのコーディネート

- ・コーディネーターを配置し、子ども食堂の立上げ支援や、子ども食堂の活動を広域的に支える仕組みづくりについて、企画および検討。

### 立ち上げ支援

- ・淡海子ども食堂の開設および運営に関する経費の助成  
(初年度20万円、2年目・3年目10万円)
- ・淡海子ども食堂を始めようとしている人に対する開設準備講座の開催
- 活動を広域的に支える仕組みづくり
- ・淡海子ども食堂を実施している人の交流会の開催
- ・子ども食堂の開設・運営に関する手引書の作成
- ・人、物、場所、資金などの様々なサポートと子ども食堂をつなぐ仕組みの創設

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・滋賀の縁創造実践センターとの公私協働での取り組みにより、民間主体の自由な発想により実施。
- ・国の補助制度については、上記の取組について、地域子供の未来応援交付金(H28)、生活困窮者支援事業費補助金(H29)を活用。



きのもと子ども食堂



ほのちゃん食堂



だんらんの家 子ども食堂



出会い食堂 よっといで～





# 大津市【百人一首かるたを活用した観光プロモーション】

## コミック・映画「ちはやふる」をフックとした誘客促進

### 取組の概要

百人一首かるたやそれを題材としたコミック「ちはやふる」及び映画「ちはやふる」を活用し、本市の「かるたの聖地 大津」としての知名度の向上、本市への観光誘客促進、市内の着地型周遊の充実（滞在時間の延長と観光消費額の増額）、以上3項目を目的として、平成28年度地方創生加速化交付金事業（映画「ちはやふる」ロケ地大津市・あわら市・府中市の3市連携事業）に引続き、下記のような取り組みを行っている。

### 特徴的な取組

#### 続編・映画「ちはやふる」宣伝タイアップ

平成30年3月17日に公開される「映画ちはやふる-結び-」の宣伝と連携し、制作会社などの関係各社と調整を取りながら、舞台挨拶付き特別試写会の企画やテレビ番組とタイアップするなど、大津の観光情報についてマスメディアを通して積極的に情報発信する。

#### WEBを活用した観光情報の発信業務

Twitter公式アカウント「@chihayafuru\_project」やInstagram（新規立上げ）をはじめ、WEB媒体を活用し、『ちはやふる』ファンや競技かるた愛好家をターゲットにした、大津の競技かるたにまつわる観光情報を効果的に発信する。

#### 「ちはやふる」観光パンフレット増刷業務

昨年度、地方創生加速化交付金事業で作成した大津市・あわら市・府中市の3市合同マップの増刷を行う。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

・国の地方創生推進交付金を活用

参考 Twitter公式アカウント



参考 3市合同マップ



参考 左記と合わせて、地元かるた会や観光事業者とともに、かるた体験コンテンツの造成に取り組んでいる。



参考 H28ロケーションジャパン大賞受賞





## 取組の概要

- ・美食の開発により、来訪動機を拡大し観光消費額の継続的な拡大を図る
- ・農商工連携による地域農産物の開発を行い、特産品としてのブランディングを行う（来訪者による「買う」マーケットの拡大）
- ・農業及びそれに伴う流通サービス、飲食業などの新規事業者参入や起業の促進などによる雇用拡大を推進
- ・彦根市を中心とした2市4町（彦根市、米原市、多賀町、甲良町、豊郷町、愛荘町）全体による地域産品開発による地域連携の強化
- ・観光閑散期である2～3月に食をテーマにした誘客プロモーションを行うことによる観光振興推進

## 特徴的な取組

### 地域産品の調査・発掘・評価

彦根市周辺地域（彦根市、米原市、多賀町、甲良町、豊郷町、愛荘町）の食材に関して、平成28年度は専門家（立花尚子）による3種の調査研究（現状調査・高品質食材生産・生産拡大・産地形成・レシピ開発・栄養計算・商品評価・調理実験等）を行った。同時に地域の飲食業界へのプロモーションや新規マーケットを開発するための条件整理を行った。彦根市周辺地域（彦根市、米原市、多賀町、甲良町、豊郷町、愛荘町）の食材を整理・発信するために「近江ガストロノミー食材マップ&カレンダー」を作成し、重点食材を中心にピックアップした。

### 一流料理人による料理セミナーの開催

「近江食材」の可能性開発、調理開発と地域料理人育成のための料理セミナーを開催。一流料理人と地域料理人との個別交流も促進させ、一流若手人材の育成、誘致、交流を活性化させることを目的に、調査中の「近江食材」を試験的に活用しながら、平成28年度は3回実施した。

### DMOによる広報プロモーション

「食」による効果的な観光客誘致と市内観光消費の拡大による地域経済の活性化を目的に、『近江「美食都市」推進プロジェクト』において、実施される各事業（地域産品の調査・発掘・評価、一流料理人による料理セミナーの開催、地域産品を使用するフードカーの開発、地域産品による食企画での集客）について各ターゲットに分かりやすく発信する事業を行った。

### 地域食材を使用するフードカーの開発

平成28年度はフードカーを3台製作し、レンタル事業を開始するための許可申請、彦根市内イベント（小泉八雲朗読の夕@清凉寺、Dramatic Legacy + Dining 彦根 梅あかりと食の祭典）への試験的な出店を行った。

### 地域産品による食企画での集客

彦根城内の「梅林」（約400本）をテーマとした食とライトアップを組み合わせた集客イベント「Dramatic Legacy + Dining彦根 梅あかりと食の祭典」を開催。効果的な梅林のライトアップとフードカーも合わせることで光と食と梅のコラボレーションを演出した。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生推進交付金



近江ガストロノミー食材マップ&カレンダー



一流料理人による料理セミナー



製作した広報物



フードカー

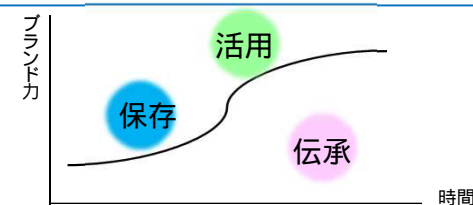
Dramatic Legacy + Dining彦根 梅あかりと食の祭典





### 取組の概要

本市には千年もの時を越えて村人に守り継がれてきた観音像が数多く残っている。これらは住民の生活に密接に結び付いており、独自の文化(観音文化)を形成しており、この文化価値を再認識に、保存・伝承・活用の視点から「観音の里・長浜」としてのブランド構築を進める。



### 特徴的な取組

#### 東京での観音展開催

・“観音文化”という文化そのものを伝え、観音の里の魅力を発信するため、観音展を開催。単に仏像の展覧会としての開催ではなく、地域における祈りの文化、生活や風土との深い結び付きなど、地域文化としての魅力、特徴を伝える機会として開催。(H26・H28の2回開催;延べ約5万人来場)

#### 首都圏での情報発信拠点「びわ湖長浜KANNON HOUSE」の開設

・東京観音展での評価をふまえ、地域魅力の発信に加え、現地・長浜へのゲートウェイとなる機能として開設。従来のアンテナショップとは異なるコンセプトとして、来客数より高い満足度を得られ、長浜ファンづくりに取り組んでいる。

#### 地域での観音文化ネットワークの構築

・各地域での保存方法や受入体制、今後の活用方策について、集落同士で意見交換、情報共有を図り、地域における持続可能な体制をつくる。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地域活性化交付金(地方創生交付金;H26補正)、地方創生加速化交付金(H27補正)を活用。
- ・地域における保存活用に向けて、外部からの視点を取り入れるため、地域おこし協力隊制度を活用。



東京観音展(H26)



東京観音展 (H28)



びわ湖長浜KANNON HOUSE





# 近江八幡市

## 安寧のまちづくり(近江八幡市版CCRC)事業 [H27年度～近江八幡市総合戦略事業]

### 取組の概要

- 健康自立寿命を延ばし、また、心身が弱ってきて、物的空間的支援環境とミニマムな人的ケアに支えられて、最期まで、できるだけ自立的に、自宅や住み慣れた地域社会の中で暮らし続けられるような、地域社会の社会的・空間的環境を整える
- 主に大都市圏からの移住者や既住者が、生涯暮らし続けられる近江八幡ならではの「まち」を、地域住民、市民、世界中の支援者とともに作る、日本の新しい「超高齢社会対応の地域社会づくり」を先導するモデルとなる「まちづくり」プロジェクトとして取組む

### 特徴的な取組

#### 【安寧のまちづくり基本構想策定(H27)】

- 安寧のまちづくりの基本的な方向性を整理するため、産官学民による推進会議を設け、移住ニーズ調査と移住受入れに当たっての課題整理を行い、基本構想に取りまとめた
- [調査内容]ウェブ調査、グループインタビュー、アンケート、現地ツアー参加者への聞き取り、当市移住者への聞き取り調査、関係事業所等への受け入れ体制アンケート

#### 【安寧のまちづくり基本計画策定(H28)】

- 基本構想の事業化に向けての目標、基本要件、事業内容、事業化のプロセスなどを示すため、策定委員会で協議を行い、併せて、共創プラットフォームの形成に取り組み、基本計画に取りまとめた。

#### 基本計画の策定

基本計画策定委員会による協議(全4回)

共創プラットフォームで収集した安寧のまちづくりに関する意見・アイデアについて、策定委員会に還元し、また、安寧のまちづくりの取組をプラットフォームへフィードバックすることで、事業全体の実践と検証のサイクルを構築する

#### 共創プラットフォームの構築

ネット(オンラインプラットフォーム)  
安寧のまちづくりに関心がある全世界の市民、事業者、専門家等からアイデア・意見を幅広く収集

リアル(ワークショップ、事業者研究会)  
オンラインで収集された安寧のまちづくりに関する意見・アイデアを実社会にフィードバック。関係者の連携をコーディネート

### 【ワークショップの様子(平成28年度)】



### 【オンラインプラットフォーム】 <http://www.o8c.jp/>



### 活用した国の支援・取組の工夫等

上記事業の実施にあたっては、国の地方創生加速化交付金及び地方創生推進交付金を活用(平成29年度継続中)



# 近江八幡市

## 近江八幡未来づくりキャンパス事業 [H28年度～ 近江八幡市総合戦略事業]

### 取組の概要

- ・ 官民連携のもと、市民や学生が企業、NPOや行政といった所属を越えて共に創造的・実践的に学ぶための人材育成プロジェクト。
- ・ 特定のテーマについての事業計画の策定等を通して、単なる学びの場に留まらず、実践へと進化させられる地域リーダーや社会起業家を育成することを目的とする。

### 特徴的な取組

#### 【未来づくりキャンパス 地域資源活用塾】

地域資源を活用して、地域の社会的課題の解決につながる「生業」づくりや社会起業を構想・実践する人が創出される仕組みづくりを目指す。  
 ・ 講座(学び)と実践の機会を通じて、地域の社会的課題に持続的に取り組むための手法を学び、課題解決につながる仕事づくりにチャレンジする人材が育つ仕組みをつくる。

塾生のチャレンジをカタチにする場づくり  
 ・ 塾生の目標や動機を深掘りし、企画立案だけでなく、必ず小さなお試しごと(実証実験)に挑戦し、企画の実現・事業化を目指す。チャレンジを通じて、メンターが伴走しながらサポート。



課題に取り組む上で、大切な人や地域との繋がりが生まれる場づくり  
 ・ 塾の卒業生や関係者との交流を通して人脈を広げる。また、地域で活躍する実践者や、課題に関わる関係者を見つけ、つながる機会をつくる。

近江八幡市をフィールドとして、地域の社会的課題の解決に熱意を持って取り組む方

運営支援をまちづくり会社へ委託し、人材育成のノウハウを地域において内製化→内発的発展へ

### 平成28年度の実績

塾生17名  
 (20代～70代までの様々な世代、職業)  
 5チームが6つの事業計画を策定

事業名	内容
はぐくみ隊	ポンプ小屋を活用しての高齢者や子ども達が交流するための居場所づくり。
未来予想図塾	貧困・片親家庭の子ども達のための学び合い・育み合うための居場所づくり。
ちょこっと暮らしのサポート	高齢者の生活の中でのちょっとした困りごとをワンコインでサポート。
農園シェアリング	野菜作りの技術を若者に継承するために、農家の土地・道具・知識をシェア。
温かいスープ	スープの配食を通じた独居高齢者等の見守り。そこから見えてくる市民の課題・ニーズの把握等。
西の湖リノベ	西の湖をより一層和み集える場所にするためのゴミ清掃活動等の環境整備。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

・ 上記事業の実施にあたっては、国の地方創生推進交付金を活用(平成29年度継続中)

### 【塾の様子(平成28年度)】



<http://www.omi8-campus.jp/>

近江八幡未来づくりキャンパス 公式ウェブサイトも公開中!



# 草津市 【住む人も、訪れる人も、健幸になれるまち「健幸都市くさつ」実現プロジェクト】

## 健幸都市くさつの実現



### 取組の概要

平成28年度から、住む人も、訪れる人も、健やかで幸せになれるまち「健幸都市」づくりに向けた取組を進めている。

平成28年8月に、健幸都市くさつキックオフシンポジウムを開催し、市として健幸都市を創り上げていく意志や目指すべき方向性を内外に示すために、「草津市健幸都市宣言」を行った。

また、行政だけではなく、市民の皆様や様々な関係機関の皆さまと連携しながら、健幸都市づくりを推進する必要があるため、各まちづくり協議会や市内の企業・団体等にも草津市健幸都市宣言に賛同いただいたほか、独自の健幸宣言も実施いただいた。

さらに、これまでの健康福祉施策にとどまらず、市の総合政策としてまちづくりの中核に「健幸」を位置づけ、都市計画や福祉、教育、産業振興など、健幸を切り口とした分野横断的な取組を推進するため、平成29年3月に「草津市健幸都市基本計画」を策定した。

### 特徴的な取組

#### 草津市健幸都市宣言

・ 市民が健康で幸せに暮せる新しい都市モデル「健幸都市」づくりに向けた取組を進めており、市として健幸都市を創り上げていく意志や目指すべき方向性を内外に示すために、平成28年8月に「草津市健幸都市宣言」を行った。

まちづくり協議会や市内の企業・団体等にも草津市健幸都市宣言に賛同および健幸宣言の実施

・ 行政だけではなく、地域や企業など様々な関係機関と連携しながら、健幸都市づくりを推進していくことから、地域や企業などに草津市健幸都市宣言への賛同および独自の健幸宣言を実施していただいている。(平成29年10月現在91団体・事業所)

#### 草津市健幸都市基本計画の策定

・ 健幸都市を創造するために全市的に取り組む事項等を定めることにより、健幸都市に向けた取組が総合的かつ計画的に推進させるために当計画を策定。

#### 健幸イベントの実施

・ 健康拠点として活用している草津川跡地公園において、健幸都市づくりを啓発するとともに、子どもから高齢者まで、幅広い世代に対して健康づくりや運動のきっかけづくりを提案するためのイベントを実施。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

・ 地方創生推進交付金を活用



草津市健幸都市宣言およびまちづくり協議会の健幸宣言



草津市健幸都市基本計画



### 取組の概要

平成28年度末に策定した草津市健幸都市基本計画に基づく「しごとの健幸づくり」を推進するため、「健幸」を意識しながら、健康、スポーツ、観光、体験、医療・福祉、地産地消、特産物などの本市の多様な地域資源(素材)の掘り起こしを行うとともに、マーケット調査やワークショップ、モニターツアーの実施などを行い、将来的には民間主体の自立的な運営が可能となるよう、草津版ヘルスツーリズムの商品化に向けた調査・検討を行う。

### 特徴的な取組

#### 草津版ヘルスツーリズム構築に向けた地域資源(素材)の掘り起こし

- ・「健幸」を意識したヘルスツーリズムの構築に向けて、健康、スポーツ、観光、体験、医療・福祉、地産地消、特産物などの多様な地域資源(素材)の調査
- ・地域資源や飲食施設等の受入側と、ツアー案の内容に係るワークショップの開催、実現可能なツアー(案)の取りまとめ

#### 健康づくりモニターツアーの実施・報告

- ・「草津ならではの」ヘルスツーリズムを構築するため、プレス・一般向けモニターツアーの実施(共に日帰り・宿泊)
- ・モニターツアー参加者を対象としたアンケート調査の実施、参加者のニーズ分析等

#### 草津版ヘルスツーリズムの実施に向けた計画検討

- ・、 の実施による現状、課題、ニーズ等の分析、平成30・31年度に実施予定の「草津版ヘルスツーリズム」企画(案)の取りまとめ
- ・各年齢層、性別におけるニーズや季節等を活かした「草津ならではの」ツアー(案)の作成



ワークショップ実施風景

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生推進交付金を活用



## 取組の概要

### 『ビワイチ起点のまち守山市を全国へ発信！』

「守山市」と「ビワイチ」の**認知**を高め、「守山市から“ビワイチ”してみたい」と**興味**を持ってもらい、観光客の増加を目指した各種プロモーション施策を展開！

## 特徴的な取組

### コンセプトポスター制作

- ・「琵琶湖」を前面に、「琵琶湖から見た守山市」をキーワードに、ドローンを駆使して琵琶湖の美しさを伝えるポスターを制作

県外や海外の方からも、琵琶湖はこんなに美しかったんだと大好評！！

### ビワイチPR動画制作

- ・**守山市だけでなく、「滋賀県全域を舞台としたビワイチ」**のPR動画を県内初制作！女性にも優しいビワイチを表現するため、話題の美女サイクリスト集団**「ちゃりん娘」をモデルに起用**し、全国のサイクリストへ発信！

ユーチューブ再生回数1.7万回突破！！

### ビワイチサイトとビワイチ情報パンフレット制作！

- ・「**ビワイチに興味をもっていた方**」への情報を得やすい環境づくりのため、専用サイトを立ち上げました。あわせて、レンタサイクル、宿泊施設、駐車場やアクセス情報等ビワイチ情報満載のパンフレットも制作！

### 市外県外のサイクリストへ積極的な情報配信！

- ・ビワイチPR動画をfacebookやtwitterでターゲット選定をした広告配信！
- ・**ビワイチPR用パンフレットラック**を制作し、サイクリストの情報入手拠点である**京阪神地区の有名自転車店18店**に設置！

サイクリストだけでなく、自転車店もビワイチ情報を求めており、連携した取組はWIN・WIN関係に！！

## 活用した国の支援・取組の工夫等

地方創生加速化交付金(H28)、地方創生推進交付金(H29～)



コンセプトポスター



ビワイチ動画



ビワイチサイト



ビワイチパンフレット



ビワイチPR用パンフレットラック





## 取組の概要

高齢者自身が社会の現状を理解し、主体的に健康づくりや介護予防、生きがいづくり、社会参加などに取り組むことにより、健康寿命の延伸を図る。



## 特徴的な取組

- 100歳大学の開校 (= 自らの関心に応じた「学び直し」)
- <対象者> 原則65・66歳の新規高齢者【平成29年度:1,359人】
- <期間> 1年間(第3期:平成29年10月～平成30年7月)
- <運営> 公設民営(市設置、一般社団法人健康・福祉総研に委託)
- <場所> コミュニティーセンターなど市内公共施設を活用
- <講師陣> 現場の実践者、専門家、地域の人材を積極的登用
- <授業> ・週1回 全40回(1コマ90分)講義・演習・施設や現場での実習  
・市民を対象とした公開講座(年齢制限なし)
- <仕組み> 運営委員会設置。  
カリキュラム・講師、大学卒業生の活躍の場の提案。

### 卒業後の活動

- ・平成28年に卒業した36名が28会を結成し、卒業後もつながりを継続。
- ・28会の中で「健康生きがいづくりアドバイザー」の資格を取得されたメンバーが中心となり、栗東駅前チャレンジショップを利用した無農薬野菜の対面販売を実施。
- ・28会メンバーが中心となって「ノルディックウォーキング」などの健康生きがいづくりを実践。
- ・平成29年6月からは、新しい拠点での活動を模索中。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

介護保険特別会計(地域支援事業交付金含む)

総論	・人生100歳時代	・現代社会と若い
<p><b>健康づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運動 老いのメカニズム 体と脳のメカニズム スポーツの魅力 100歳体操 笑いと体操</li> <li>・栄養 老いと食事 メタボと食事 一人暮らしと食事 料理の魅力</li> <li>・健康診断 がん予防と健康診断</li> </ul>	<p><b>生きがいづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生きがい 福祉と「農」 生きがいと就労 福祉サービス就労 シルバーの起業</li> <li>・社会貢献 地域役員に就任 地域活動への参加 新規活動の立上げ 個人での奉仕活動 ボランティアグループへの参加</li> </ul>	<p><b>福祉</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉の実態 わが国の福祉の実態 市の福祉の現状と課題 高齢者福祉の現状 障がい者福祉の現状 児童福祉の現状 地域包括ケアの取組</li> </ul>
<p><b>地域の実態</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>市の現状と課題 自治会の現状と課題 地域の福祉課題 老人クラブの活動 地域の安心、安全の課題 高齢者への期待されること</li> </ul>	<p><b>幸せづくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>人間と宗教 感謝の心 日本人と宗教 老いと祈り</li> </ul>	<p>くりちゃん</p>



# 甲賀市 【“甲賀流”DMO地域再生推進事業】 甲賀流忍者活用戦略事業



## 取組の概要

市民や民間事業者と協働で、甲賀流忍者にまつわるヒト・モノ・コトを掘り起こし、市民の忍者への意識の醸成をはかるとともに、観光ルートの設定等、関連事業者とタイアップした戦略など忍者の取り組みをオール甲賀で取り組み、国内外から誘客を図る。また、忍者を活かしたまちづくりへの市民意識の醸成と外部から招聘した地域プロデューサーによる観光客の受入体制組織(DMO)の構築に向けた取り組みも合わせて進める。



## 特徴的な取組

### 甲賀市版観光DMO設立

・観光の成果の考え方を「観光客数」だけでなく、「地域内の消費額」や「観光産業への起業件数」にも目を向け、これらの視点で地域プロデューサーを中心に、行政と民間事業者、団体等による観光ビジネス共同体、DMOの構築を目指す。

### 忍者調査団調査研究

・市内に眠る甲賀流忍者の末裔や文献に関する調査を継続して行うことで、甲賀流忍者の存在を広く世間にアピールし、本物の忍者のまちを創出する。

### 日本忍者協議会への参画

・【参画自治体】三重県、三重県伊賀市、神奈川県、神奈川県小田原市、長野県、長野県上田市、滋賀県、滋賀県甲賀市、佐賀県、佐賀県嬉野市

### 観光推進シンポジウムの開催(平成29年8月17日)

・平成29年4月に忍者と信楽焼が日本遺産に認定されたことを受け、観光ビジネスキックオフシンポジウムを開催。

### 忍者の日特別給食

・市内の小中学校、幼稚園、保育園にて、忍者のまち甲賀市にちなんだ給食を提供し、シビックプライドの醸成を図る。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

・地域活性化・地域住民等緊急支援交付金(H26国補正)、地方創生加速化交付金(H27国補正)、地方創生推進交付金(H29国当初)の活用。



日本忍者協議会



甲賀流忍者調査団



甲賀流忍者調査団



日本遺産観光シンポジウム



忍者の日特別給食



忍者の末裔と文献

# 甲賀市 【“甲賀流”女性の活躍プロジェクト】 活き活き女性活躍事業



## 取組の概要

「女性の力」を最大限発揮し、女性が社会で活躍できるよう、「仕事」と「育児や介護などの家庭生活」の両立に向けた取り組み、また結婚や出産により離職された女性の再就職に向けた取り組みを進めることで、女性の社会進出を実現する。



## 特徴的な取組

### ワーク・ライフ・バランスの実現

イクボス共同宣言(平成29年11月3日)

### 女性のキャリアアップや再チャレンジを支援

#### マザーズ就労相談

- ・「働きたい女性」を対象に専門のキャリアカウンセラーによるカウンセリングを託児付きで開催。

#### 女性の資格取得企業支援事業

- ・女性従業員の技能・資格取得費用を負担した企業等に対する経費の助成。

#### 女性の専門職資格取得助成事業補助金

- ・子育て中の女性を対象に就職や仕事に役立つ資格や免許の取得経費の助成。

#### 女性のためのお仕事フェア

- ・結婚や出産等で離職し、再就職を希望する女性を主な対象としたセミナーと市内企業・事業所との合同就職面接会を開催。(平成30年1月18日)

### 関連する取り組み

#### 子育て世代包括支援事業

- ・平成29年4月に甲賀市子育て世代包括支援センター(ここも〜り)を開設。
- ・子育て世代が働きながら安心して子育てができるよう、妊娠期から出産期、子育て期まで切れ目のない支援を実施。(一部運営を民間団体に委託)

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生推進交付金(H29国当初)の活用。



イクボス宣言



マザーズ就労相談



イクボス研修会



甲賀市子育て世代包括支援センター(ここも〜り)

## 【高齢者等の支えあい拠点・終活仕組みづくり事業】

### 取組の概要

単年度事業費800千円(事務費20万+法律家報償費5万×12ヶ月)を市が補助。平成27年度・平成28年度実施  
 高齢化している地域の課題に対応するため、高齢者等が安心して地域で生活し、最期を迎えられる地域づくりを推進し、各地域でも活用できるような仕組みを検討する。

### 特徴的な取組

#### 事業内容

地域の自治会メンバーが組織するNPO法人篠原シニアネットが事業主体。  
 自治会館を相談拠点とし、地域に暮らす高齢者等の見守り等(カギの預かり等)財産管理、遺言等の相談から、看取りや死後事務委任手続きまでを受け止めるスムーズな互助の仕組みづくりを実現するため、法律家の法的サポートを受け、検討を進める(NPO法人と法律家の間でアドバイス契約を行う)。

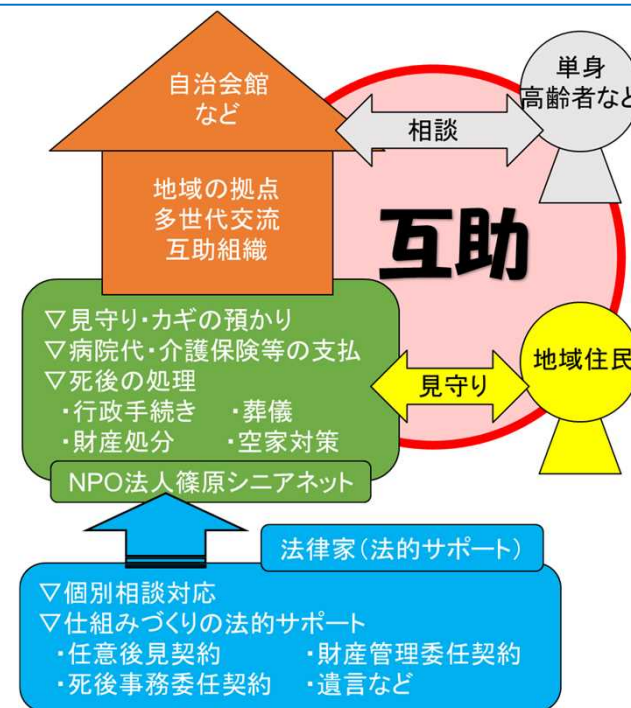
#### 法律家の法的サポート

- (1)相談会や勉強会、事業報告会の開催(平成27年度40回、平成28年度44回)
- (2)仕組みづくりの法的サポート(任意後見契約・死後事務委任契約・遺言書作成等)

作り上げた仕組みを、他の地域でも活用できるように、参考となるマニュアルを作成し取り組みを他地域にも広げる。

平成27年度作成 エンディングノート 250冊配布  
 平成28年度作成 遺言書 200冊配布  
 効果

- ・単身高齢者が孤立死等の不安感をなくすことで安心して地域で暮らすことができる。
- ・財産処分により地域で老朽化する空き家問題の解消となり、また空き家を管理することで、若い世代に居住してもらうなど、地域の多世代交流につながる。



勉強会の様子

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生先行型交付金(H26国補正・80万円)を活用 ・平成28年度市独自事業

# 湖南省 【エネルギーの域内循環プロジェクト】

地域の自然エネルギーでまちづくり (地産地消のエネルギー × ヒト × 地域経済)



## 取組の概要

湖南省では、全国に先駆け「自然エネルギーは地域固有の資源」であることを宣言しました(H24.9月条例化)。この理念のもと、市・事業者・市民が一体となり、エネルギーのみならずその生み出した利益を地域循環させるための先進的な取組を展開しています。また、これらの取組を通じて、持続的発展が可能な社会の構築を目指しています。(右図はめざすべき姿)



## 特徴的な取組

### 地産地消のエネルギー

コナン市民共同発電所(一般社団法人)  
民間事業所や公共施設の屋根に太陽光発電パネルを設置し、その売電収入を地域商品券として出資者に還元します。

バイオマス燃料製造(イモ発電・熱利用)プロジェクト  
「こなんイモ・夢づくり協議会」が運営主体となり、「イモ空中栽培」などの取組に障がい者や高齢者などの社会参画を促し、農業と福祉の連携を進め、イモ発電に取り組んでいます。

### ヒトへの取組 湖南省総合戦略「KPI」達成

エネルギー関連事業の市民参加者数(総合戦略数値目標(KPI)):1,390人  
H28実績:1,558人(市民講座492人、イモ空中栽培1,066名)

### 地域経済

地域新電力会社こなんウルトラパワー(市・民間企業と共同出資)  
平成28年4月からの「電力小売りの全面自由化」により自治体主導の官民連携で設立しました。また、収益については新たなまちづくり事業等に役立つことで地域に還元します。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

(環境省)グリーンプラン・パートナーシップ事業(内閣府)地方創生推進交付金  
(経済産業省)地産地消型再生可能エネルギー面的利用等推進事業

市民共同発電所

農福連携による市民参加

**「空中栽培イモ」は、こうして利用される!**

**空中栽培イモ**

空中栽培により、通常の栽培の3~8倍、収穫できます。

光合成により、空気中の二酸化炭素の量を減らすことができます。

**空中栽培イモはエネルギー(安心・安全な電氣)に!**

サツマイモを細かくしてメタン菌を入れ発酵させます。

発酵によりメタンガスが発生する

メタンガスを使って安心・安全なエネルギーを作る

二酸化炭素を出しません

空中栽培イモは **食糧** に!

特産品開発

### 取組の概要

全国シェアの90%以上を本市で生産している綿クレープ「高島ちぢみ」の国内市場が縮小する中、吸湿性にすぐれ爽やかな着心地が得られる特性を生かし、高温多湿の東南アジア諸国中間上位所得層向けの市場を開拓するため、海外販路開拓のための調査業務を実施。

平成28年度から、高島ちぢみに加え、高島帆布の販路開拓にも取り組んでいる。



### 特徴的な取組

#### 事業者、商工会、金融機関、県、市等でのプロジェクトチームによる事業推進

- ・関係者同士で定期的・継続的にプロジェクト会議を実施。海外での商標登録事務や事業者の設備投資における融資など、関係者が必要な情報や支援を適宜持ち寄ることが可能となっている。
- ・現地調査には、織布業の30～40代の若手事業者が参加。通常、国内商社との取引が多い事業者が、本事業を通じて海外のバイヤーやデザイナー、顧客の反応に直接触れることにより、事業者自身の意欲向上にもつながっている。

#### 国内での注目の高まりと高島晒協業組合での雇用創出

- ・事業展開後、繊維ニュース等の業界紙のほか、日経新聞等でも取り組みが紹介され、国内での注目が高まっている。
- ・市内8つの織布事業者が加盟し、生機(きばた)の漂白・染色・プリント加工等を行う高島晒協業組合に6人の雇用が生まれた。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生先行型交付金、加速化交付金、推進交付金等を活用しながら、本市の総合戦略における重点事業として取り組んできた。
- ・JETRO等とも連携して相談支援を活用。事業初年度で販路開拓が実現したインドネシアにおいて、現在は事業者が直接JETRO支援制度を活用して独自展開を行っている。



台南市・遠東百貨店での催事(平成29年9月)



左:マレーシア・ファッション・ウィークへの出展  
右:現地デザイナーとの商談(平成28年11月)



インドネシアイオンでの催事(平成28年3月)

# 高島市 【トップセールスによる企業誘致】 廃校を活用した菌床きのこ栽培事業

## 取組の概要

少子化等の影響を受け平成27年3月末をもって廃校となった今津西小学校の廃校利活用策として、東近江市に本社を持つ精密部品検査・加工の共栄精密株式会社を誘致。同社が熊本県人吉市で行っていた菌床きのこ類栽培の新たな拠点として、地域活性化と地域雇用の増大を目指す。



## 特徴的な取組

### トップセールスによる企業誘致と事業始期の負担軽減支援

- ・市長自ら熊本県人吉市の工場を視察し、トップセールスによる企業誘致を実現。廃校を5年間無償貸与する市議会議決を得て、事業始期の企業負担の軽減と、雇用等地域経済への波及効果の早期発現を目指しつつ、市としても施設維持管理費の軽減を実現。



### 徹底した品質管理とブランド化

- ・精密機器の検査・加工業務を行っていた共栄精密の品質管理体制により、安定生産が可能。「高島きのこの学校」の名前でご当地ブランド化を行い、市内量販店で販売するほか、飲食店との取引にもつながっている。



### 障がい者雇用

- ・市内の就労支援事業所から派遣されていた3名が、事業者による直接雇用となった。

上：校舎内栽培室の様子  
下：「高島きのこの学校」商品

### 菌茸類菌床の生産事業および その関連事業の推進に関する協定書調印式



協定締結式（平成28年4月）



住民交流見学会の様子（平成28年7月）



加工調理例（左：きくらげの味噌汁 右：きくらげパスタ）

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・これまでは国の支援策によらず、企業誘致として廃校を5年間無償貸与する市議会議決を得て、事業始期の企業負担軽減による稼働安定と、地域活性化効果の早期発現を目指してきた。今後、生産体制の拡大等により、国の支援策も検討。

# 東近江市 【定住移住促進プロジェクト】

## 補助金、移住ツアー、婚活、しごとづくり等を通じた移住促進



### 取組の概要

東近江市人口ビジョンで平成22年から30年後には人口が18,000人減少する事が予想されています。全国的に少子高齢化が進む社会の中で、どうしても避けられない人口減少ではありますが、少しでもその減少を鈍化させられるような様々な事業に取り組み、本市への移住を促進するものです。

### 特徴的な取組

#### 定住移住推進補助金

・市外からの転入者向けの住宅新築補助金以外に、市在住者の定住を図るべく、多世帯同居・近居向けの補助金や子育て世代向けの補助金など補助事業を幅広く備えています。

#### 移住ツアー、定住移住相談会、空き家バンク

・年に3回の移住ツアー（就農、子育て、起業）を実施し、東近江市の魅力を広く発信し、移住促進を行っています。また、定期的に移住相談会も開催しています。  
 ・移住推進に必要な「住居」については、東近江市住まいるバンクと業務提携し、空家を有効活用すべく、連携して取り組んでいます。

#### 結婚サポート連絡会設立

・平成29年3月に設立。それまで、各団体がそれぞれ婚活事業に取り組んでいましたが、各団体が情報を共有することができるようになり、効率の良い活動ができるようになりました。  
 また、結婚サポート連絡会で、結婚希望者登録制度を開始し、希望者には異性とのマッチングや婚活イベントの情報提供をしています。

結婚希望登録者数 男性25名、女性8名(平成29年10月12日時点)

#### 「東近江市しごとづくり応援センター」の設置とUIターン促進事業

・東近江市しごとづくり応援センターを設置し、専門のコーディネーターが事業所を訪問して仕事内容や人材ニーズを把握し、求人情報の収集及び求人への開拓を実施するとともに、求職者と事業所とのマッチングや体験実習等のきめ細やかな就労支援を実施しています。

また、都市部に流出している若年者、地元出身者や地方移住希望者等を東近江市へ誘導するための就労支援を行っています。「転職博」・「就職博」への出展、ふるさと回帰フェアへの出展

### 活用した国の支援・取組の工夫等

・結婚サポート連絡会設立に当たっては、国の地域少子化対策重点推進交付金を活用。  
 ・しごとづくり応援センターの設置に当たっては、地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金を活用。(地方創生先行型:H26国補正)

<h4>家を建てる・買う(転入)</h4> <p><b>新築</b> 上限 50万円</p> <p>平成28年4月1日以降に転入し、転入後2年以内に新築住宅を取得される場合に取得費の一部を補助します。</p> <p>※補助率は補助対象経費の10分の1以内</p> <p><b>対象者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年4月1日以降に転入した人で、転入日から起算して過去2年以上市外に住所があった人で転入後2年以内に新築住宅を取得する人</li> <li>補助金交付申請時に市税を完納している人</li> <li>交付対象となる住宅の所有権を2分の1以上有する人</li> </ul>	<h4>多世帯で同居・近居する</h4> <p><b>新築</b> 上限 50万円</p> <p>多世帯同居または多世帯近居し、市内に新築住宅を取得される場合に取得費の一部を補助します。</p> <p>※補助率は補助対象経費の10分の1以内</p> <p><b>対象者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>多世帯同居                     <ul style="list-style-type: none"> <li>同居している子ども世帯が親世帯と同居すること</li> </ul> </li> <li>多世帯近居                     <ul style="list-style-type: none"> <li>市内に親、子または孫のいずれかが居住している住宅を中心とした半径3km以内の区域または同一小学校区内に居住すること</li> </ul> </li> </ul>
<h4>家を建てる・買う(子育て)</h4> <p><b>新築</b> 上限 50万円</p> <p>小学生以下のお子さんがある世帯が市内に新築住宅を取得される場合に取得費の一部を補助します。</p> <p>※補助率は補助対象経費の10分の1以内</p> <p><b>対象者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学生以下の子どもと同居する人</li> <li>補助金交付申請時に市税を完納している人</li> <li>交付対象となる住宅の所有権を2分の1以上有する人</li> </ul>	<h4>空家に住みたい</h4> <p><b>改修</b> 上限 50万円</p> <p>平成28年4月1日以降に東近江市空家バンクを活用し、市内に住宅を取得または賃借される場合に改修費の一部を補助します。</p> <p>※補助率は補助対象経費の5分の1以内</p> <p><b>対象者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自己居住用として、東近江市空家バンク制度により住宅を取得または賃借し、平成28年4月1日以降にその住宅に住み始めた人</li> <li>補助金交付申請時に市税を完納している人</li> </ul>
<h4>家を建てる・買う</h4> <p><b>新築・中古</b> 上限 30万円</p> <p>市内に新築・中古住宅を取得される場合に取得費の一部を補助します。</p> <p>※補助率は補助対象経費の10分の1以内</p> <p><b>対象者</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>補助金交付申請時に市税を完納している人</li> <li>交付対象となる住宅の所有権を2分の1以上有する人</li> </ul>	<h4>補助条件&lt;共通事項&gt;</h4> <ol style="list-style-type: none"> <li>市内の住宅販売者又は施工業者と契約したものが対象です。                  ※本補助制度の市内の住宅販売者又は施工業者とは…                  (1) 市内に本社、事業所を有する法人又は市内に住民登録を有する個人事業者                  (2) 上記(1)の事業者が事業の一部を下請負させる事業者</li> <li>事業計画書提出までに着工されたものは対象となりません。ただし、補助金制度周知期間のため、平成29年4月1日以降に着工し5月中に事業計画書を提出されたものは、交付いたします。</li> <li>定住移住推進補助金は、予算の範囲内で交付します。</li> </ol>

定住移住推進補助金チラシ



ふるさと回帰フェアin東京

8月15日(お盆)開催の相談会



# 東近江市 【人と人、人と自然とのつながり再生】 森里川湖・鈴鹿10座エコツーリズムの推進！



## 取組の概要

東近江市では、合併して大きくなったフィールドの森里川湖のつながりやこれまで活用できなかった地域資源、そして人と自然とのつながりが薄れ、劣化してしまった地域資源を再生活用する東近江らしいエコツーリズムを推進しています。

## 特徴的な取組

### 東近江市エコツーリズム推進協議会の設立

・環境活動団体・地域会社・観光協会・アウトドア事業者・行政の連携

### エコツアーの試行

・鈴鹿10座登山、山のぼり講座、川あそび・クラフト体験など

### 鈴鹿10座エコツーリズムガイド養成講座の開催

・ガイド人材の育成 全10回の講座を19名が受講

東近江の地域資源(自然・歴史文化・地質・生き物)に関する知識やガイディング技術(歩行技術・安全対策・登山装備)の習得

### 地域資源調査

・専門家や事業者などキーパーソンへのヒアリング

・資源調査(ピワマス・希少植物)

### 情報発信

・プロモーションビデオの制作

・地域のCATVとの連携による登山番組の制作

## 活用した国の支援・取組の工夫等

・地方創生推進交付金・加速化交付金

・環境省アドバイザー派遣事業



エコツアーの試行



ガイド養成講座

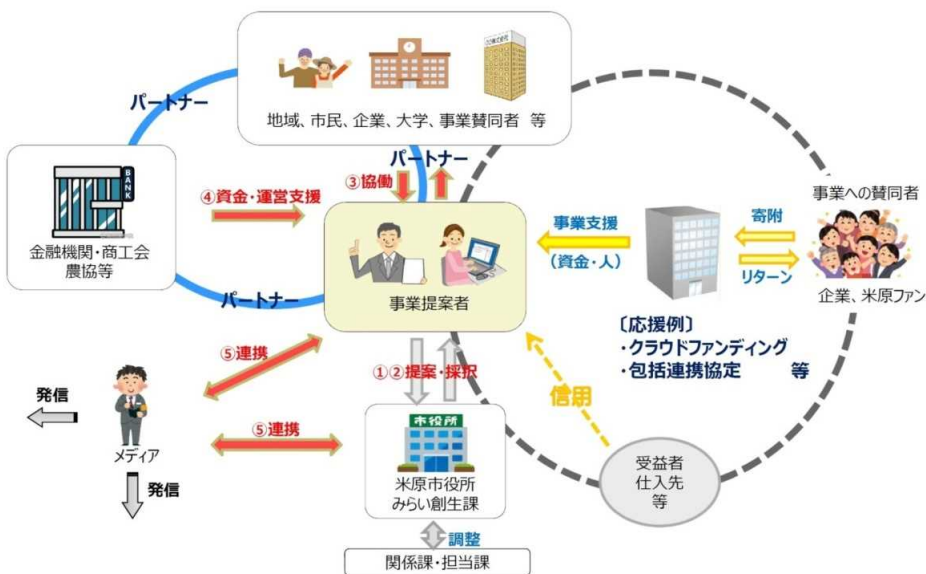


取組の概要

民間事業者、NPO、大学、市民団体等の民間同士が連携し、社会的課題の解決を協働で進める活動のほか、地域に雇用を生み出す事業や女性・若者の活躍を実現するための活動など、米原市をフィールドにした、地域にイノベーション・インキュベーションをもたらす取組を募集。採択した事業には100万円を上限とした資金助成やクラウドファンディング支援、担い手同士などのマッチングなどの支援を行う。

特徴的な取組

ヒト(提案者)×ヒト(提案者) = イノベーション(米原創生)を生み出すプラットフォーム



〈提案条件〉

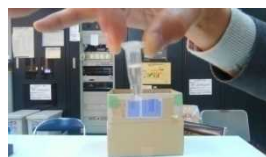
- 条件 提案は2者以上が連携して提出
- 条件 米原を舞台とすること。
- 条件 地域イノベーション・インキュベーションに資すること。

〈平成28年度採択 3件(応募3件)〉

- 1 地域資源を使った香り商品の開発、製造販売**  
伊吹山の薬草の商品化に取り組み、クラウドファンディングを活用して独自ブランド「かくとだに」を立ち上げている。
- 2 外国人を呼び込む、新たなマーケット開拓事業**  
京都エリアのインバウンド向けの体験・宿泊・ツアー紹介アプリ「kyoto-OK」に米原市内の観光ルートを掲載
- 3 米原クリエイターズアソシエーション事業**  
米原駅前の隣町パーラーを拠点にセミナーやイベントを開催。まちのスキルアップとアクセスの良さを活かした人材の掘り起こし・連携を推進

活用した国の支援・取組の工夫等

FAAVO滋賀と連携し、事業資金確保のためのクラウドファンディングを促進



〈参考〉平成29年度応募事業 7件

# 日野町 【近江日野 三方よしの人づくり ふるさと活力再生プロジェクト】 まちの賑わいの創出と地域経済の活性化に向けた地方創生の推進



## 取組の概要

100年の歴史を次世代に引き継ぐ形で再生した日野駅舎を観光交流の玄関口とし、「近江日野商人館」、「近江日野商人ふるさと館」、「日野まちかど感応館」の三館連携により人の流れを創出する。

また、課題となっているまちなかの賑わいの創出のため、「日野まちかど感応館」に店舗施設および交流スペースと併せて駐車場を整備し、人と地域、経済が輝くまちづくりによる雇用の創出を図るプロジェクト。

## 特徴的な取組

### 日野まちかど感応館

- ・日野の歴史ある町並みの中心に位置する観光と情報発信の基地施設。ギャラリーの開設や屋台店舗による賑わいの創出にも取り組んでいる。

### 近江日野商人館

- ・近江日野商人の旧邸宅を活用した歴史民俗資料館。特に日野商人の歴史が学べ、大学や企業の研修等に活用されている。日野商人に関わる特別展示を年に数回行い、話題づくりに取り組んでいる。

### 近江日野商人ふるさと館 旧山中正吉邸

- ・近江日野商人の旧邸宅を利用し、町に残る貴重な歴史資料や絵図の展示、各種の講座や学習会などを開催することとともに、暮らしの中で受け継がれてきた日野の伝統料理を、庭園を眺めながら食体験ができる施設。また、お茶席やカフェを開くなど、接客サービスの充実に取り組んでいる。

日野駅交流施設も含め、上記三館が特徴を活かし連携して賑わいの創出に取り組んでいる。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生加速化交付金、地方創生推進交付金、地方創生拠点整備交付金（内閣府）
- ・特定地域再生計画推進事業（内閣府）
- ・都市農村共生・対流総合対策交付金事業（農林水産省）



# 竜王町 【竜王町まるごと「スキヤキ」プロジェクト】

竜王町の魅力を効果的に発信します。



## 竜王スキヤキプロジェクト

### 取組の概要

竜王まるごと「スキヤキ」プロジェクトとは「近江(おうみ)牛(うし)発祥の地」であり、近江米、鶏卵、野菜(キャベツ、白ねぎ、さつまいも等)、果樹(桃、サクランボ、葡萄、梨、柿等)、地酒(松の司)等の特産品がある竜王町。2つの道の駅やアウトレットパーク等、集客施設や特徴的な歴史、文化などの地域資源も豊富です。これらを活かし、近江牛を使った「すき焼き」をシンボルにしながら、竜王産の地域資源を組み合わせることで相乗効果を生み出すことを「すき焼き」に見立て表現した「スキヤキ」をキーワードとして、竜王町の魅力をPRし、畜産、農業、商業、観光等の活性化によるしごとの創生、人の流れの創出により、元気なまちづくりを目指すプロジェクトです。

### 特徴的な取組

#### 竜王町まるごと「スキヤキ」プロジェクトのイベント実施

・近江牛をはじめ竜王町の豊富な特産品を広く県内外へPRするため、食のイベントを開催している  
直近では、平成29年10月15日に「まるごと竜王産スキヤキプロジェクトwith近江牛の大鍋事業」を開催。近江牛の牛鍋3,000食試食会や、町内外から近江牛の屋台および県内道の駅も多数出店。当日は雨にもかかわらず、5,000人を超える来場者を記録。

#### 首都圏におけるPR活動

・竜王町の特産品等をPRするため、東京のアンテナショップや、日本橋の情報発信拠点「ここ滋賀」等において、スキヤキプロジェクトのPRイベントを実施  
平成29年11月には、有名シェフが竜王町の食材を使った料理イベント、地酒「松の司」と竜王産の旬のフルーツ、地元特産品のふなずし等のおつまみを「竜ノコバコセット」として提供する特別メニューを用意するなど計3日間のイベントを開催予定。首都圏において効果的なPRを実施し、知名度向上と販路拡大に繋げる。

#### 特産品ブランド「竜ノコバコ」

・竜王産の特産品を使った加工品、「竜ノコバコ」シリーズを新たなブランドとして展開  
現在、「いちごペースト」「竜王みそ」「あわび茸の醤油漬け」の3点を商品化に向けて開発。今後も新商品を開発し、竜王かがみの里、アグリパーク竜王の2つの道の駅にて順次販売する予定。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生加速化交付金
- ・地方創生推進交付金



食のイベント平成28年度  
近江牛スキヤキプロジェクトin竜王町産業フェア



すき焼きのルーツと  
言われている  
「鋤(すき)で  
すき焼き」

# 愛荘町 【THE近江・魅力満載プロジェクト】 AISHO魅力発見！発信！プロジェクト事業



## 取組の概要

町のシンボルである湖東三山「金剛輪寺」や中山道愛知川宿、手しごとの町として先人から受け継がれてきた伝統産業や鈴鹿山系からの清水で発展してきた地酒など、豊富な観光素材をさらに磨き上げ、結びつけ、首都圏に向け情報発信を行うとともに、観光地域づくりを進めるために観光まちづくり協議会を発足し、目指すべきビジョンや具体的な観光施策の検討を進める。

## 特徴的な取組

### 「愛荘町」の認知度向上(首都圏向け情報発信)

- ・首都圏の旅行会社やメディア等へ営業活動(トップセールス)を行い、本町への誘客につなげる。
- ・本町のキャラクター等のグッズ制作や観光情報誌の製作を行うことで、町の魅力を高めるアイテムを増やし、アイテムを有効に使った魅力発信を行う。

### 「観光交流」推進の体制づくり(愛荘町観光まちづくり協議会形成)

- ・地域住民、観光事業者、農業者、商工業者、企業、行政等の地域に関わる多様な人材が横断的に協力・連携し、地域一体となった魅力的な観光まちづくりを進めるために「愛荘町観光まちづくり協議会」を発足し、目指すべきビジョンとその実現に向けての必要な取り組みについて、「愛荘町観光振興計画」をより具現化した「愛荘町観光まちづくり戦略プラン」の検討・策定・実践に結びつけていく。(平成29年12月以降に発足予定)

- ・本町が抱えている観光に対する課題等を洗い出し、多様化するニーズを把握することで、今後の観光振興施策の効果的な推進を図るため、「観光意識調査」を実施。

### 「愛荘ならではの」特色あるツーリズムの展開

- ・中山道歩きの旅人と地域住民の街道における居場所づくり、旅人のニーズを把握、確認・創造するため、にぎわい創造拠点となる「恵智の駅」を開館する。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地域活性化・地域住民生活等緊急支援交付金(H26国補正)、地方創生推進交付金(H28・29国当初)の活用。



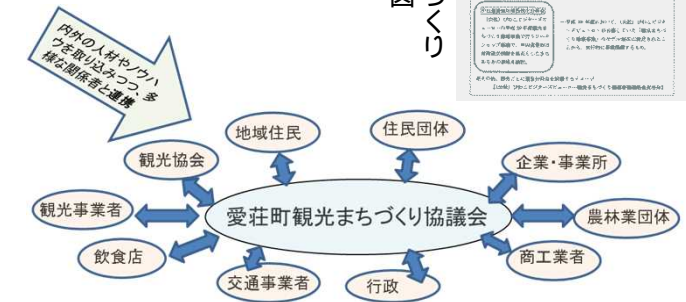
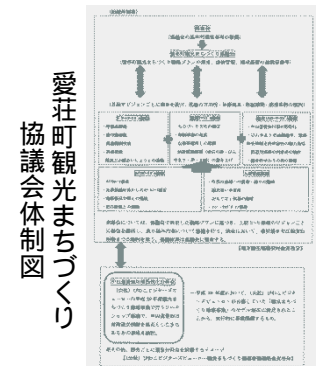
グッズのサンプル協議



トップセールス営業資料



愛荘町観光まちづくり協議会  
中山道活性化分科会の様子



愛荘町観光まちづくり協議会組織イメージ図



取組の概要

スポーツと健康づくりをキーワードに、高齢者をはじめとする幅広い世代が健康づくりや生きがいづくり、地域づくりに取組むことで、多世代交流を促進させ、いきいきとした暮らしの実現を目指す。



特徴的な取組

住民スポーツの盛んな地域づくり事業

大学との連携によるオリジナル健康体操の開発・普及と「健康ポイント制度」を活用し、健康づくりの促進を目指す。

「食」を通じた健康地域づくり事業

大学との連携による健康メニューの開発・普及を行い健康づくり活動を促進させる。

拠点から広げる健康地域づくり事業

高齢者が自ら主体的に地域での助け合いや見守りに取り組むにあたり、「ボランティアポイント制度」を創設・活用し、町内施設5拠点で、運動教室等を開催し介護予防や生きがいづくりに繋がる居場所づくりを目指す。

地域助け合い型移動サービス構築事業

今後増加が見込まれる移動制約者の移動を支援するため、ニーズの把握や仕組みづくりについての調査・研究を進め、安心・安全に住み続けることができるサービスの充実した町の構築を目指す。

生きがい・健康づくりの拠点整備事業

健康寿命の延伸や介護予防など高齢者を取り巻く環境の好循環を創出させることを目的に、高齢者の知識や経験を活かした生産的で創造的な活動のできる拠点を整備する。

住民スポーツの盛んな地域づくり事業の啓発パンフレット



拠点から広げる健康地域づくり事業



健康ポイント制度  
健やか愛ポイントカード

健康元気もりもり教室

活用した国の支援・取組の工夫等

・地方創生推進交付金 (H28・29国当初) と地方創生拠点整備交付金 (H28国補正) の活用。



## 取組の概要

親が安心して子どもを産み育て、いきいきと働くことができるよう学童保育や子育て支援センターなど子育てに関する多様なニーズに対応する環境づくりに加え経済的支援も行う。



## 特徴的な取組

### 医療費無料化

- ・高校生世代まで医療費無料  
入院、通院両方が適用。また、高校生だけでなく社会人になっていても18歳になった年度末まで適用するもので、子育てを頑張る親御さんたちを応援  
(H28年度実績 768人)

### 乳児生活応援助成事業

- ・乳児のオムツ代購入の助成  
4ヶ月検診などで申請を受付。(H28年度実績 34名)

### 小中学生入学助成事業

- ・翌年度に小学校または中学校に入学する保護者へ入学準備の助成金を支給  
(H28年度実績 小学校入学予定者 97名、中学校入学予定者 85名)



子育て支援センターや乳幼児相談の充実



乳児生活応援助成事業



小中学生入学助成事業



### 取組の概要

#### 空き家で子育て&インバウンド事業(H28~H30年度)

空き家所有者に対する意向調査および空き家バンクの構築。空き家改修を行い完成後は逐次拠点としての活用を開始する。さらに拠点の整備を進め利用者の増をめざす。



### 特徴的な取組

#### 空き家所有者意向調査事業

#### 空き家バンク構築事業

- ・町内の空き家の状況調査を行い、利用可能な空き家と移住希望者との結びつきを行う。

#### 空き家改修事業

- ・空き家NPO法人まちづくり委員会と滋賀県立大学快蔵プロジェクトが連携し古民家を簡易宿泊所に改修し、訪日外国人を誘客する。

#### リアルジャパン インバウンド宿泊・体験ツアー事業

- ・訪日外国人向け日本体験ツアーと宿泊を合わせたカスタムツアーの造成

#### 高齢者コミュニティ事業・子育て見守り事業拠点運営事業

- ・改修後の空き家を高齢者の地域コミュニティの拠点として、地域の子どもたちに関わり、思いやりの心等学ばせる場や宿題や学習の支援を行う。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地方創生推進交付金の活用
- ・NPO法人や学生、地域との連携



とよさと快蔵プロジェクト



古民家改修の様子





### 取組の概要

町内各地区に拠点を形成し、各拠点間の連携と役割分担のもとで外部との交流をはかりつつ、住みよい地域の維持と町の創生につなげる。

町内13区での拠点形成

連 ↓ 携

住みよい地域の維持



町の創生

### 特徴的な取組

#### 在土区における観光・交流拠点整備

- ・当地が戦国大名・藤堂高虎の出生地であることを活かし、古民家を観光の拠点として、また農業体験交流の拠点として改修整備。
- ・地元のNPO法人が運営。

#### 下之郷区における子育て拠点整備

- ・子育ての拠点として旧学校給食センターの建物を改修し、NPO法人を誘致して一時預かり事業を実施。
- ・子育てハンドブックの作成と子育てアプリを開発し、町の子育て情報を町内外に発信することで、拠点事業をバックアップ。

#### 長寺西区・金屋区での拠点整備

- ・長寺西区で特産品のゆずを活かした6次産業拠点を、金屋区で食の拠点を整備して、それぞれの組織が運営する(進行中)。

### 活用した国の支援・取組の工夫等

- ・地域創生加速化交付金および地方創生拠点整備交付金ならびに地方創生推進交付金を活用。
- ・町は後方支援にまわり、事業全体のコーディネートを行うことで民の自主的事業を引き出す。



藤堂高虎ふるさと館



子育てアプリ



藤堂高虎キャラクター

# 多賀町 【森林資源を活用した多賀町再生】 森林資源による地域活性化



## 取組の概要

多賀町の地域資源である森林を活用して、民間企業や森林組合および行政等が連携することによって、林業や木材産業を再び活性化させ、新規事業の展開や新たな雇用などを創出する。

## 特徴的な取組

多賀町森林・林業再生協議会の設置

森林整備から木材加工、木工業の振興までを包括的にマネジメントする民主同型組織ののちのちの立ち上げ、運営。

森林や所有者に係る情報の収集

所有者情報等の森林現況の把握を行い、森林経営の基盤となる境界の明確化や資源量の把握。

林業従事者確保のための人材育成

林業の担い手不足を解消するために林業技能者を育成するカリキュラムを作成、職業訓練の実施。

施業を行う森林の集約化と受託

森林施業を効率的に行うために、集約化および施業受託を推進する。

付加価値の高い木製品の開発、試作、生産、および広報

新中央公民館建設に係る木材(無垢材)について全量町産調達。木材の地産池消の仕組みづくり。家具等の新しい木製品の開発、販路開拓。多賀町産木材の広報、性能試験。

観光資源として森林を利用した集客

森林空間を利用した観光資源の開発。

## 活用した国の支援・取組の工夫等

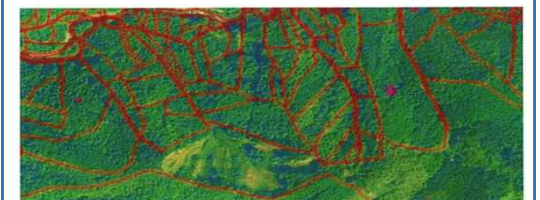
- ・地方創生推進交付金(H28、H29)の活用
- ・森林・林業再生協議会を中心とした官民協働体制により、持続的な地域の自立を目指している。
- ・商工振興や観光等との政策間連携を行い、地域活性化を図っている。



新中央公民館(平成31年4月オープン予定)



多賀町産木材町内向け広報用ポスター



航空写真を利用して作成した筆界仮置図  
(森林の現況把握)